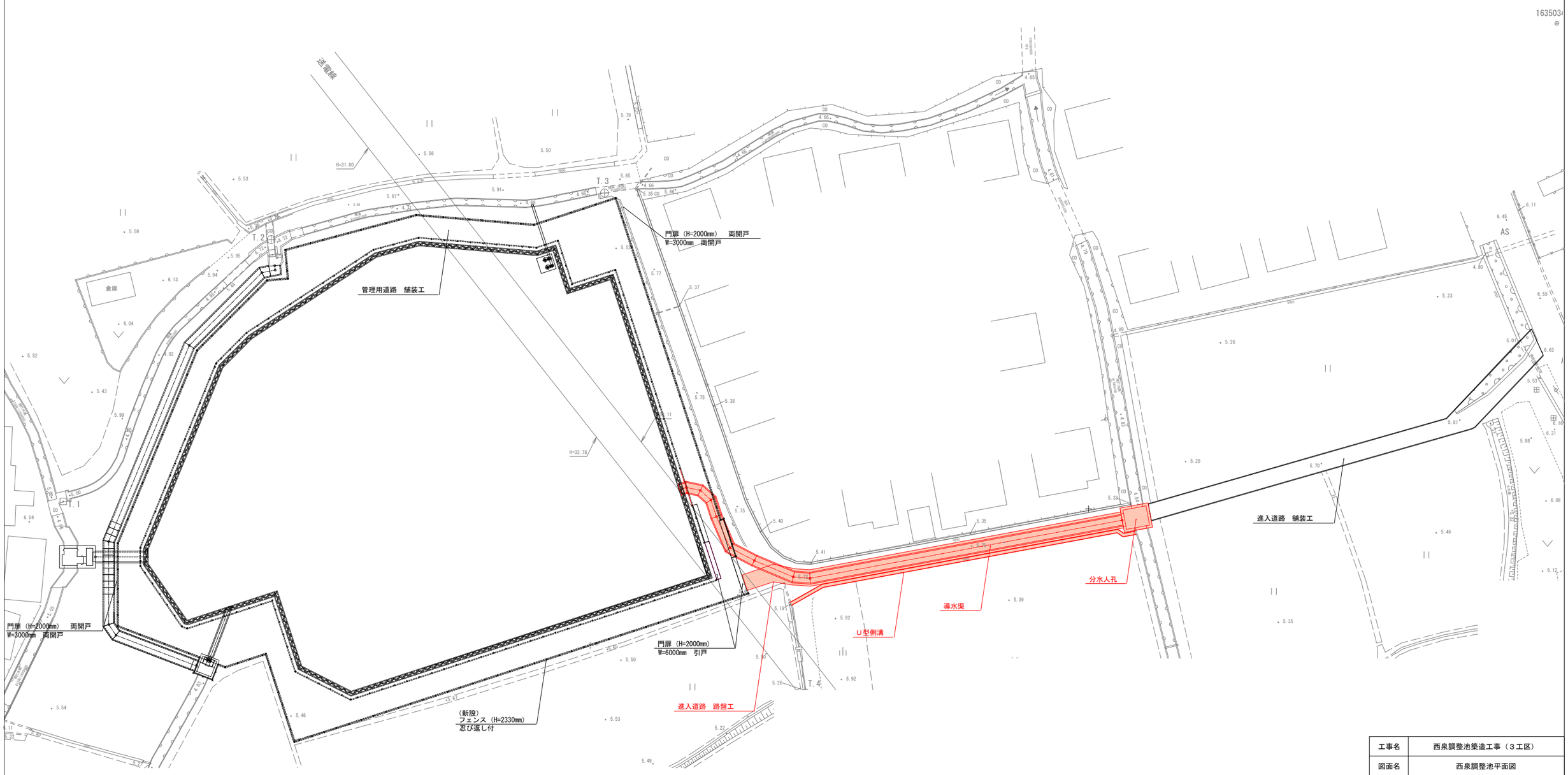
位置図

工事名	西泉調整池築造工事（３工区）		
図面名	位置図		
作成年月日			
縮尺		図面番号	01/32
工事場所	行橋市西泉六丁目・七丁目		
行橋市環境水道部下水道課			

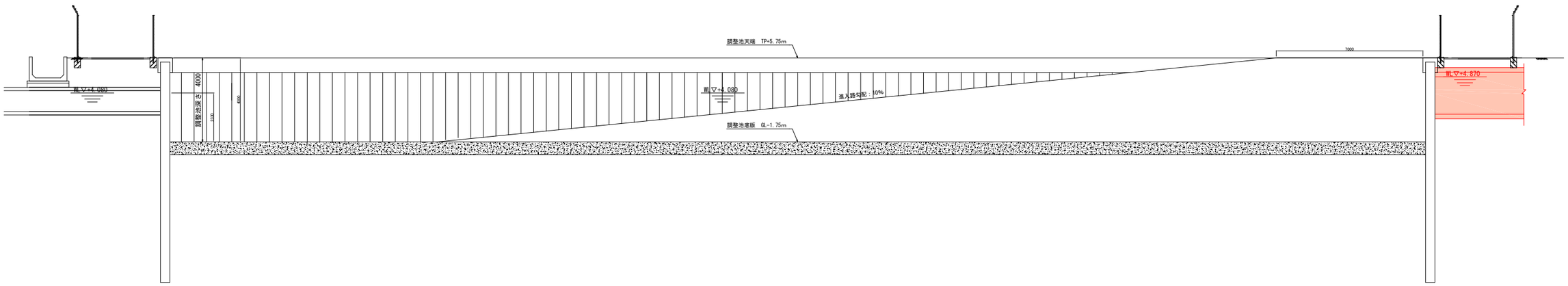
西泉調整池　平面図



工事名	西泉調整池築造工事（３工区）		
図面名	西泉調整池平面図		
作成年月日			
縮尺	S=1/200	図面番号	02/32
工事場所	行橋市西泉六丁目・七丁目		
行橋市環境水道部下水道課			

西泉調整池　断面図　その１

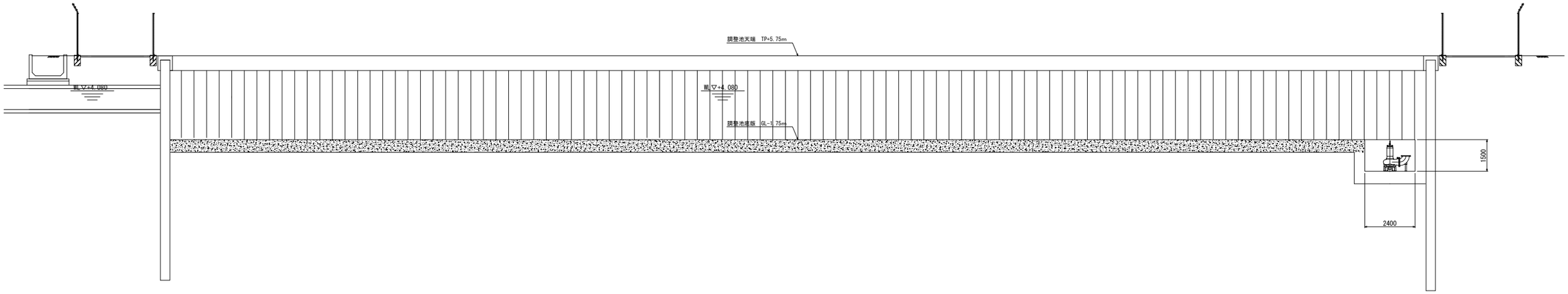
S = 1:100



工事名	西泉調整池築造工事（３工区）		
図面名	西泉調整池　断面図　その１		
作成年月日			
縮尺	S=1/100	図面番号	03/32
工事箇所	行橋市西泉六丁目・七丁目		
行橋市環境水道部下水道課			

西泉調整池　断面図　その２

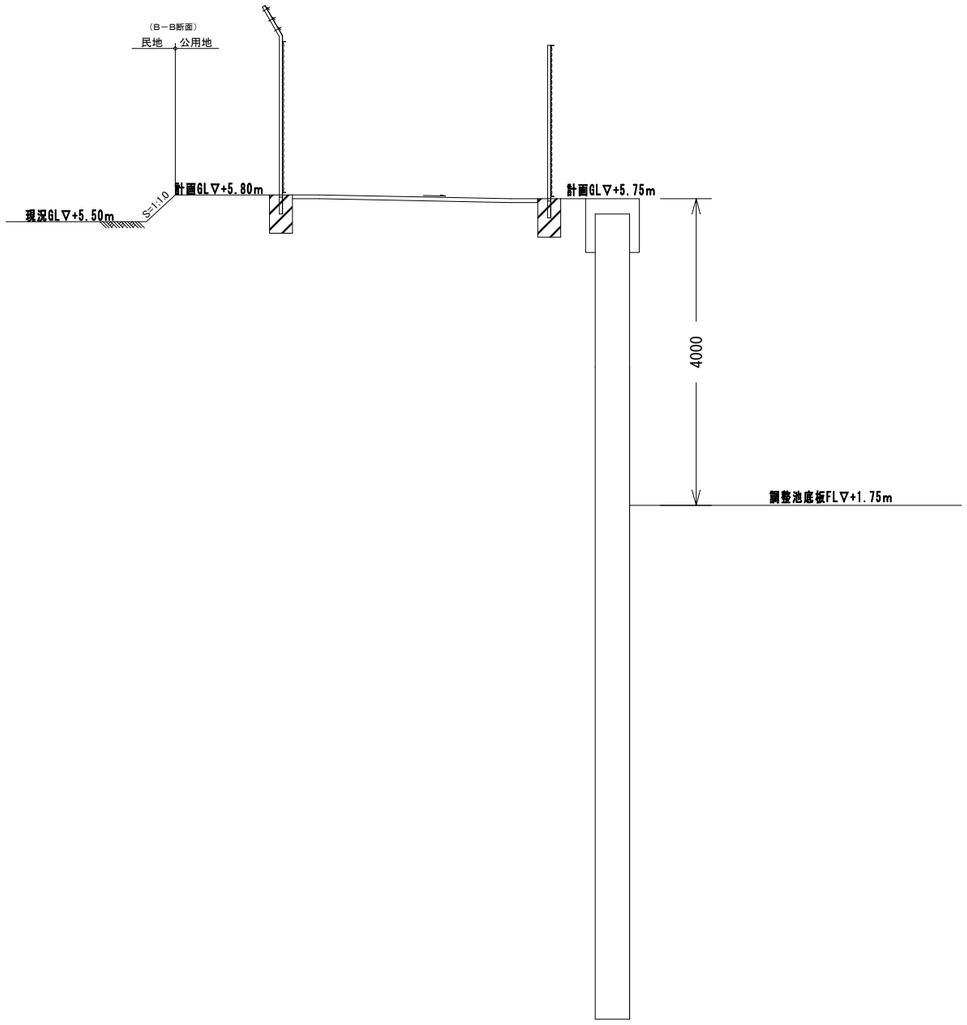
S = 1:100



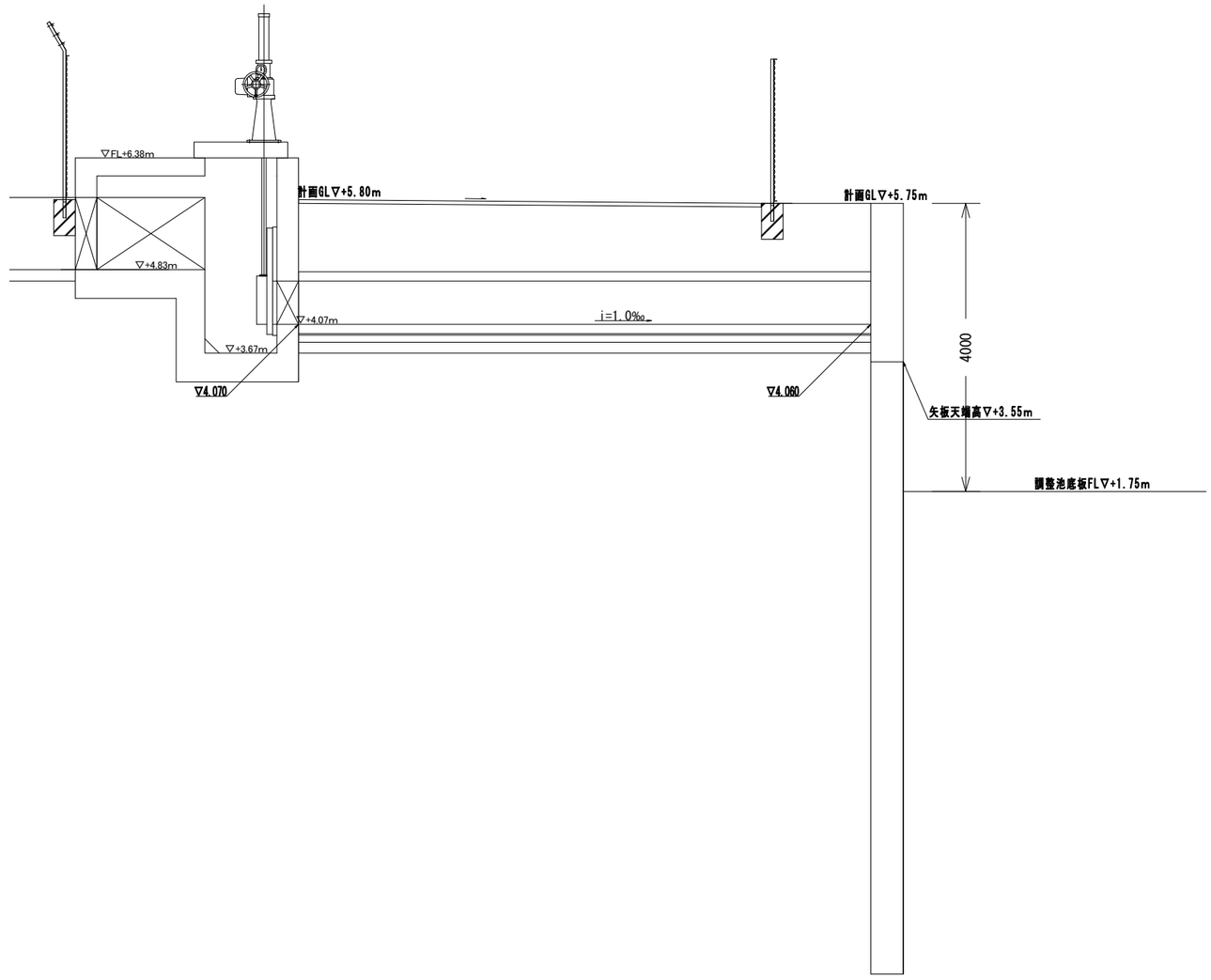
工事名	西泉調整池築造工事（３工区）		
図面名	西泉調整池　断面図　その２		
作成年月日			
縮尺	S=1/100	図面番号	04/32
工事箇所	行橋市西泉六丁目・七丁目		
行橋市環境水道部下水道課			

西泉調整池　断面図　その３

（Ａ－Ａ断面）



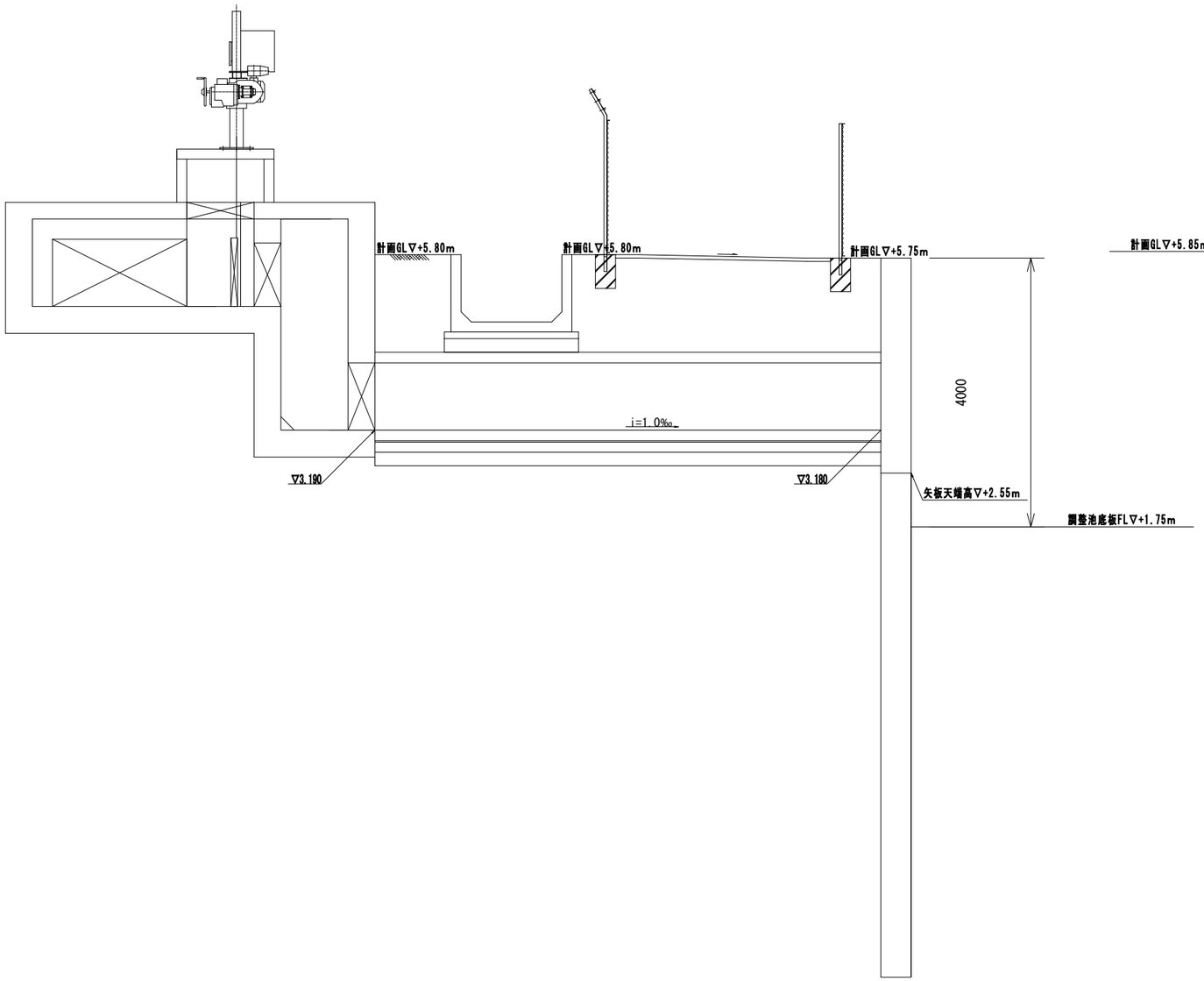
（Ｂ－Ｂ断面）



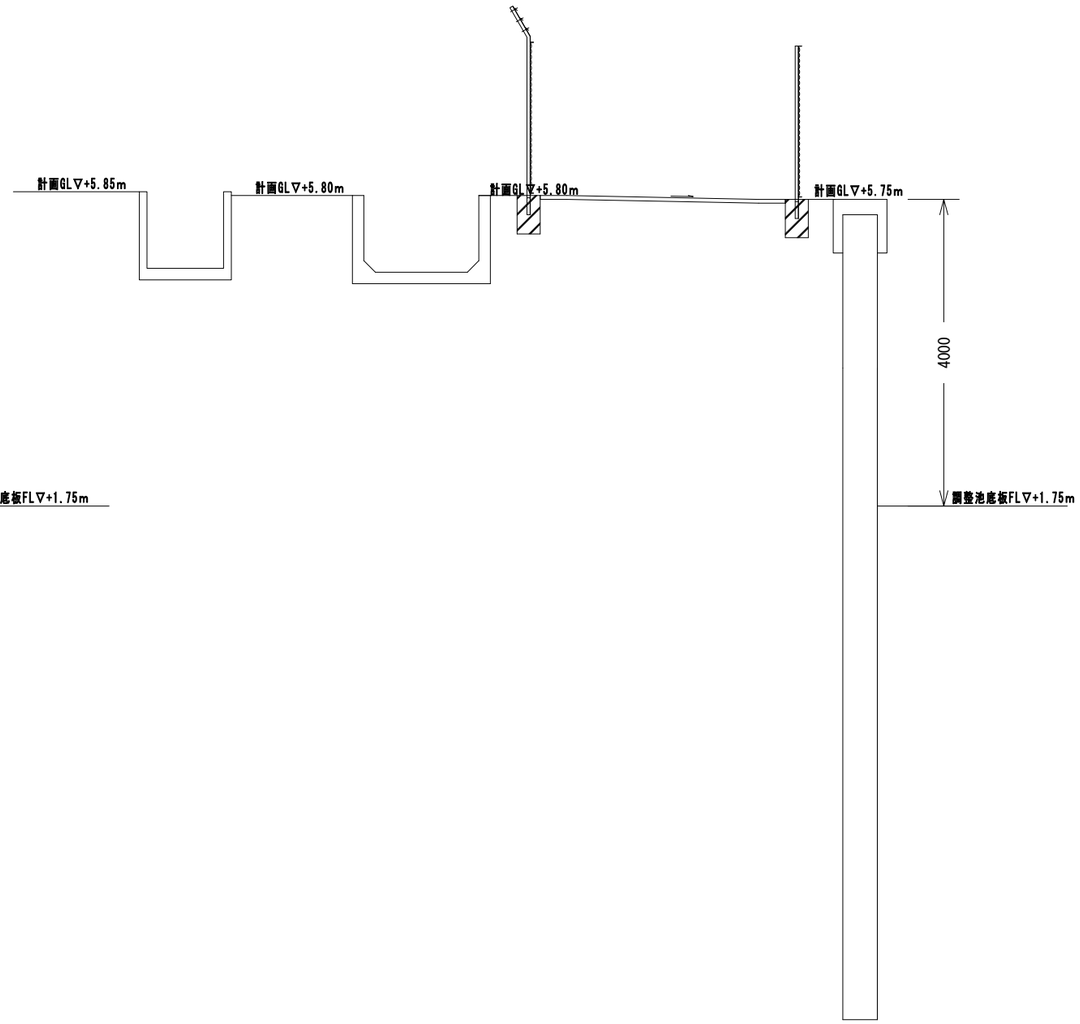
工事名	西泉調整池築造工事（３工区）		
図面名	西泉調整池　断面図　その３		
作成年月日			
縮尺	S=1/40	図面番号	05/32
工事箇所	行橋市西泉六丁目・七丁目		
行橋市環境水道部下水道課			

西泉調整池　断面図　その４

（Ｃ－Ｃ断面）



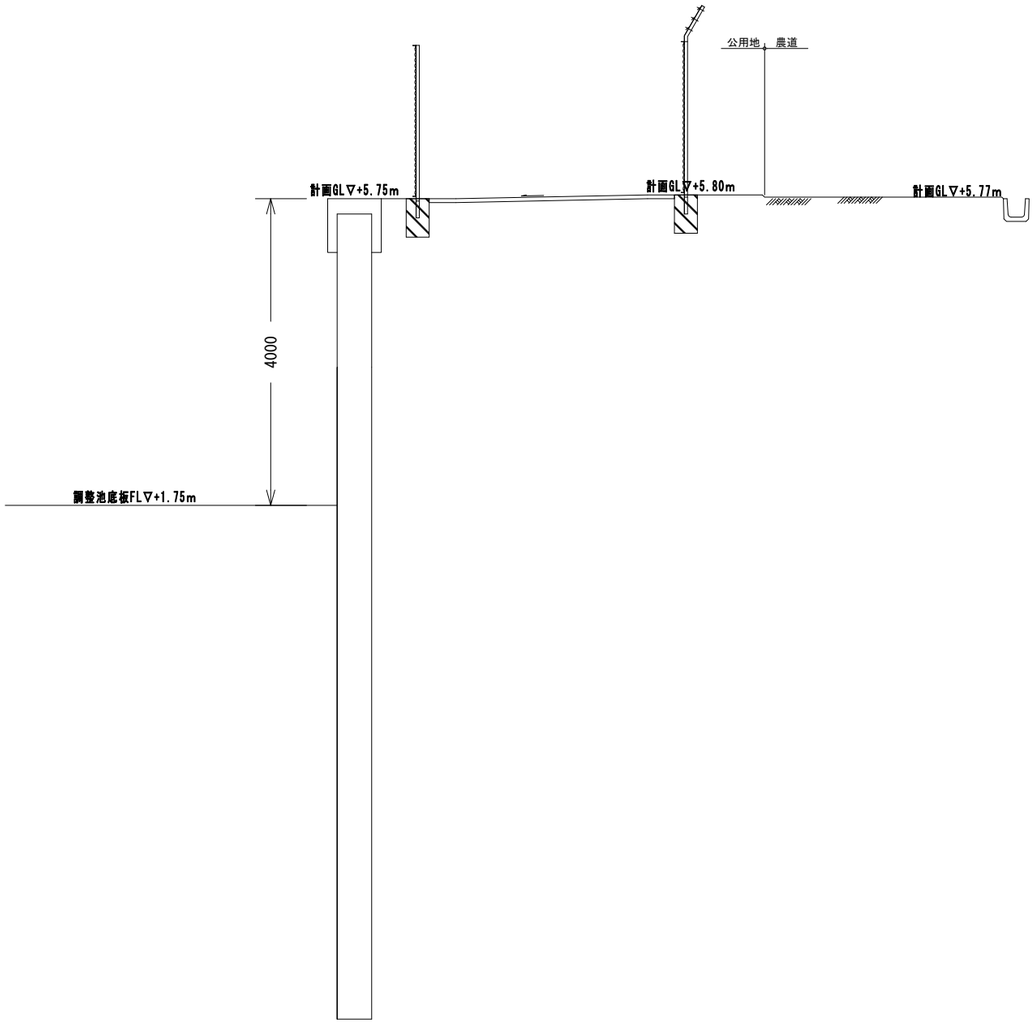
（Ｄ－Ｄ断面）



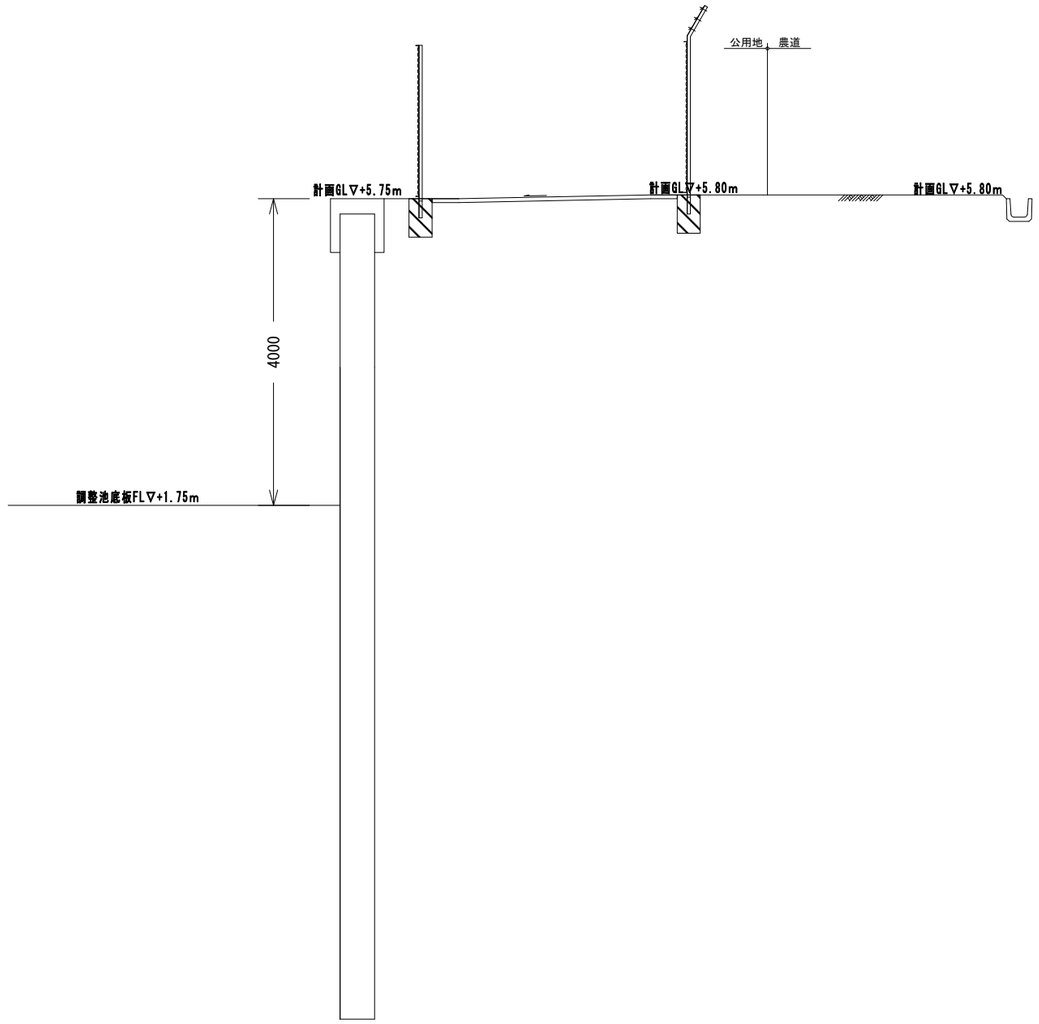
工事名	西泉調整池築造工事（３工区）		
図面名	西泉調整池　断面図　その４		
作成年月日			
縮尺	S=1/40	図面番号	06/32
工事箇所	行橋市西泉六丁目・七丁目		
行橋市環境水道部下水道課			

西泉調整池　断面図　その５

（Ｅ－Ｅ断面）



（Ｆ－Ｆ断面）

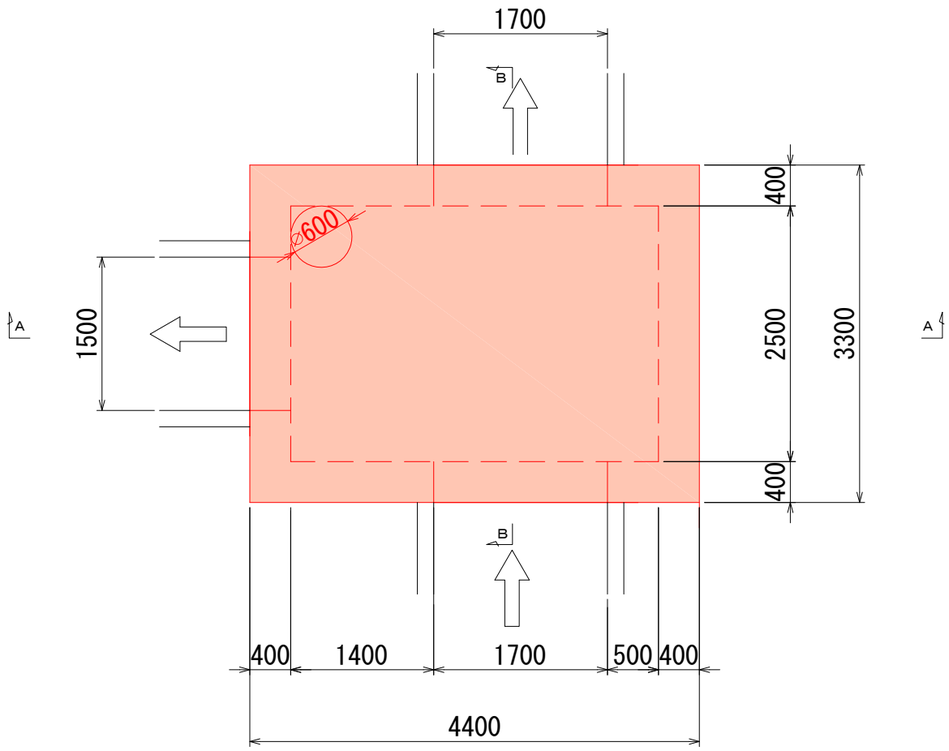


工事名	西泉調整池築造工事（３工区）		
図面名	雨水調整池　断面図　その５		
作成年月日			
縮尺	S=1/40	図面番号	07/32
工事箇所	行橋市西泉六丁目・七丁目		
行橋市環境水道部下水道課			

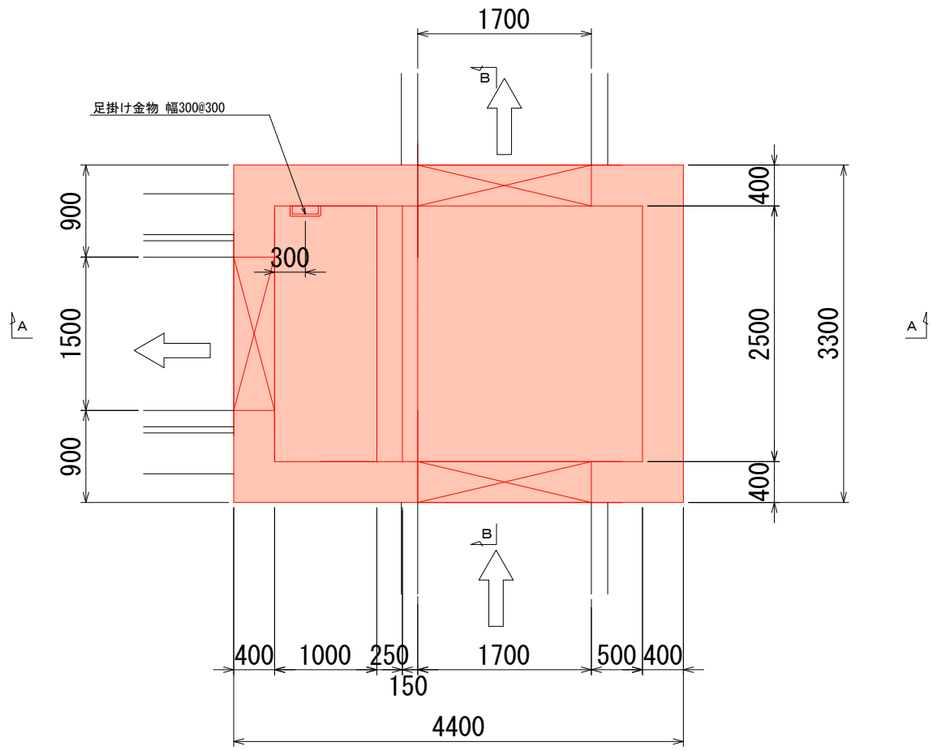
分水人孔構造図 S=1/30

（ No.3 ）

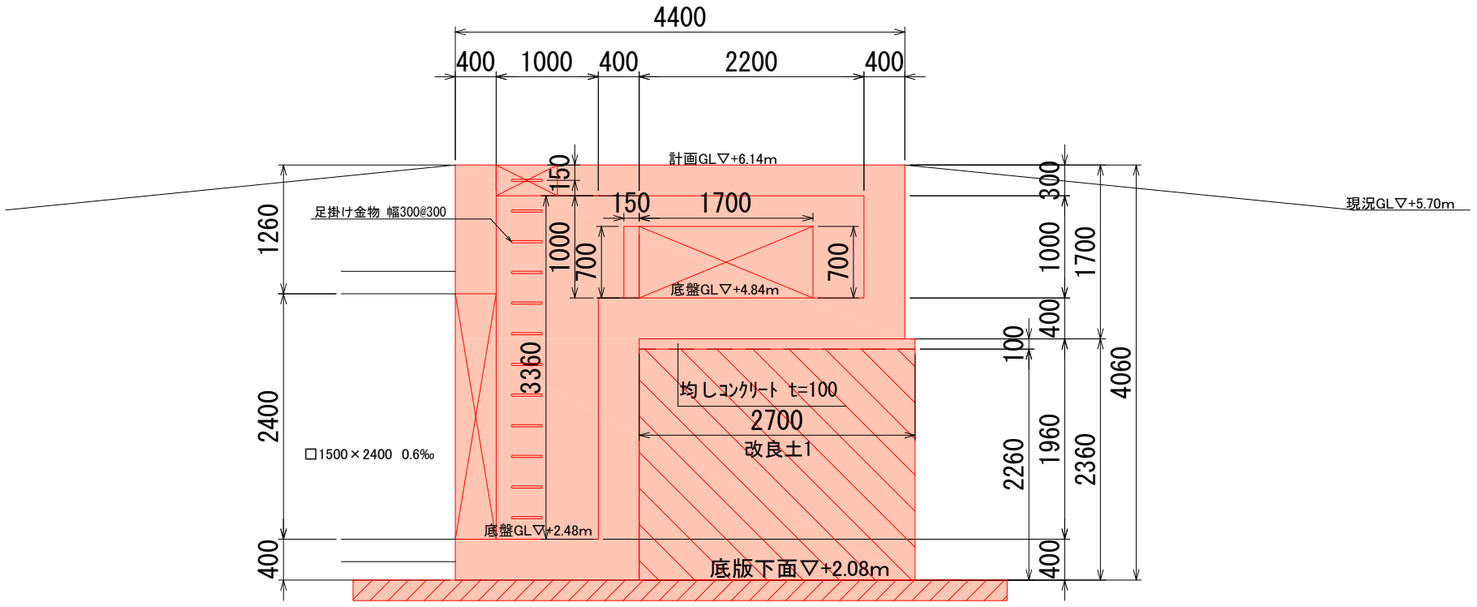
上部平面図



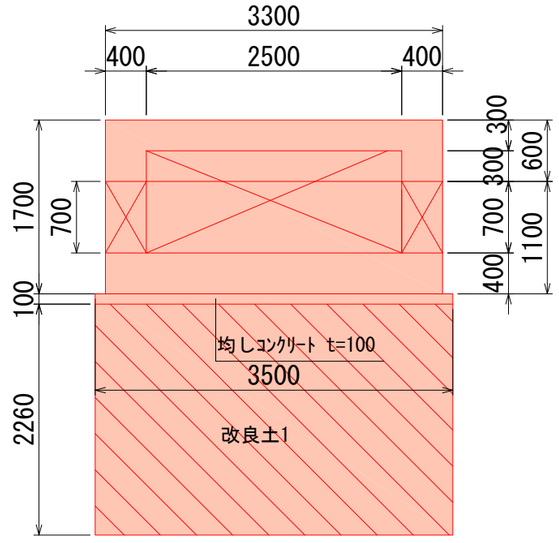
下部平面図



A－A



B－B

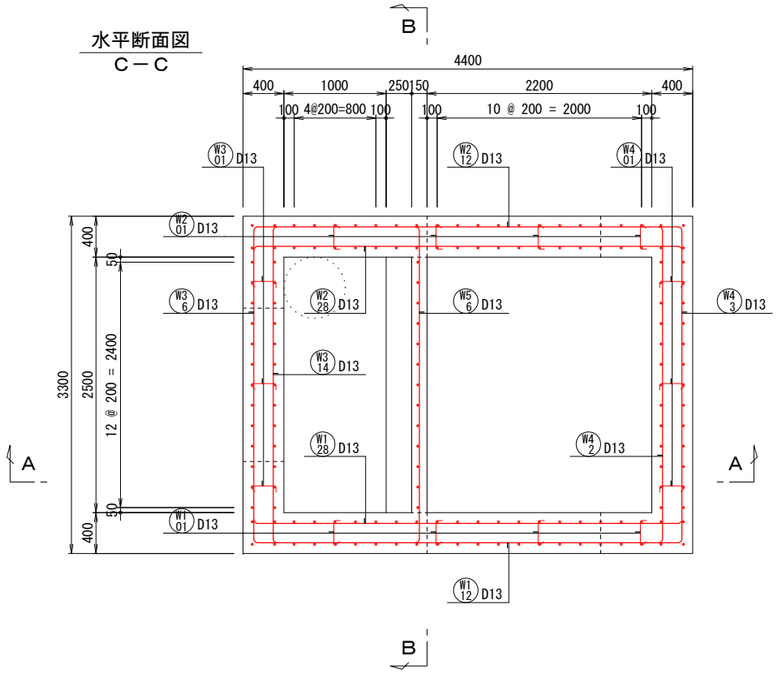


工事名	西泉調整池築造工事（３工区）		
図面名	分水人孔構造図		
作成年月日			
縮尺	S=1/30	図面番号	08/32
工事箇所	行橋市西泉六丁目・七丁目		
行橋市環境水道部下水道課			

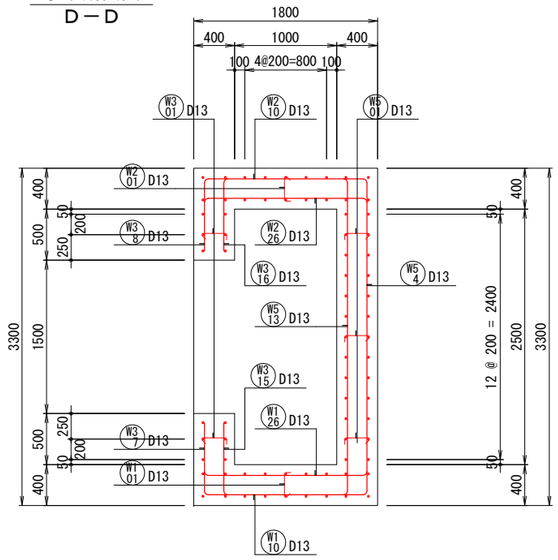
分水人孔配筋図（その１）　S=1/30

（ No.3 ）

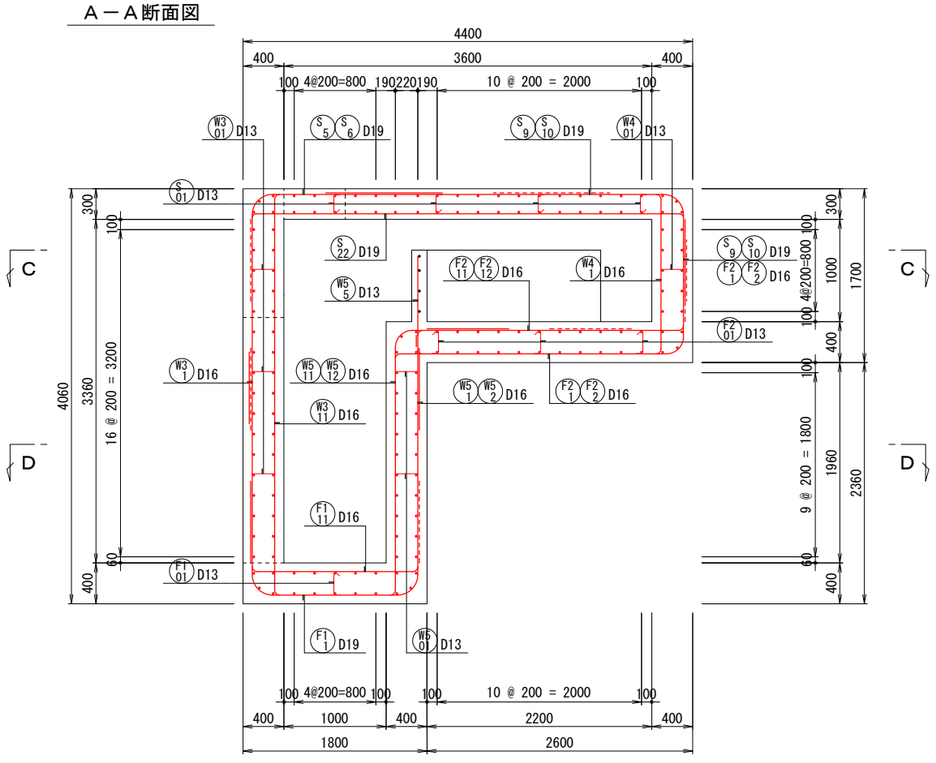
水平断面図 C－C



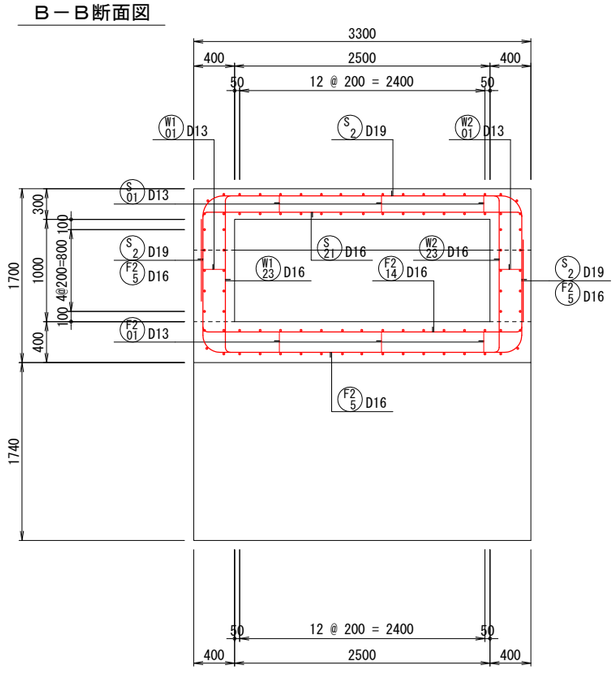
水平断面図 D－D



Ａ－Ａ断面図



Ｂ－Ｂ断面図



共通事項

１） 鉄筋かぶり （芯かぶり）
底版・頂版は内側の鉄筋とする。
壁は外側の鉄筋とする。

頂版	上面	70
	下面	70
側壁	外面	90
	内面	90
底版	上面	100
	下面	100

２） 巾止めは、１m² に１本とする。

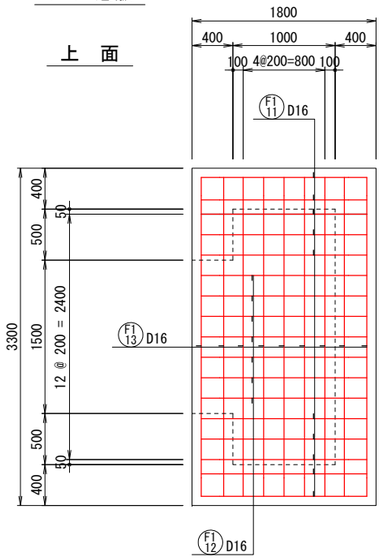
工事名	西泉調整池築造工事（３工区）		
図面名	分水人孔配筋図（その１）		
作成年月日			
縮尺	S=1/30	図面番号	09/32
工事箇所	行橋市西泉六丁目・七丁目		
行橋市環境水道部下水道課			

分水人孔配筋図（その２）　S=1/30

（ No.3 ）

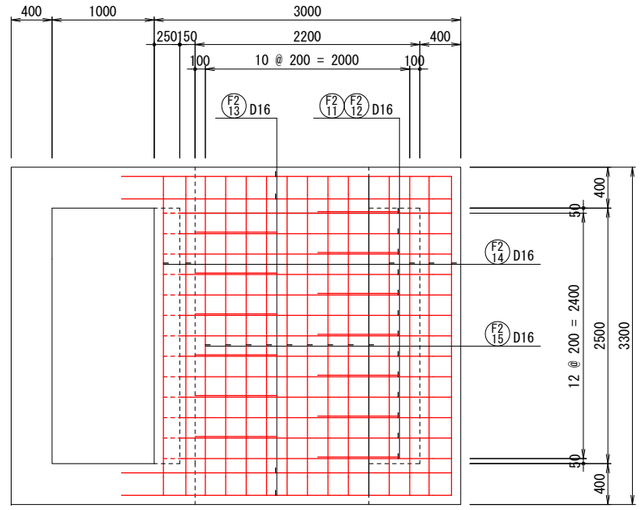
Ｆ１ 底版

上　面

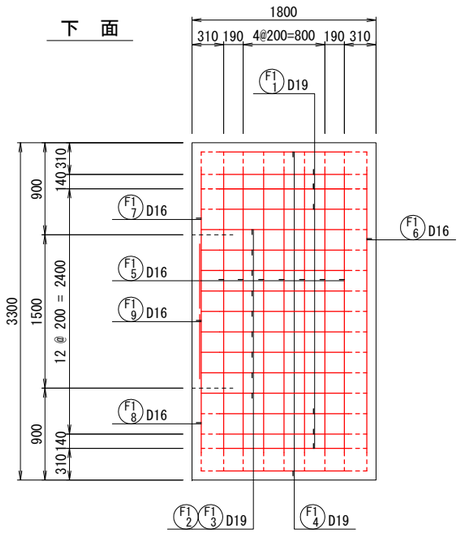


Ｆ２ 底版

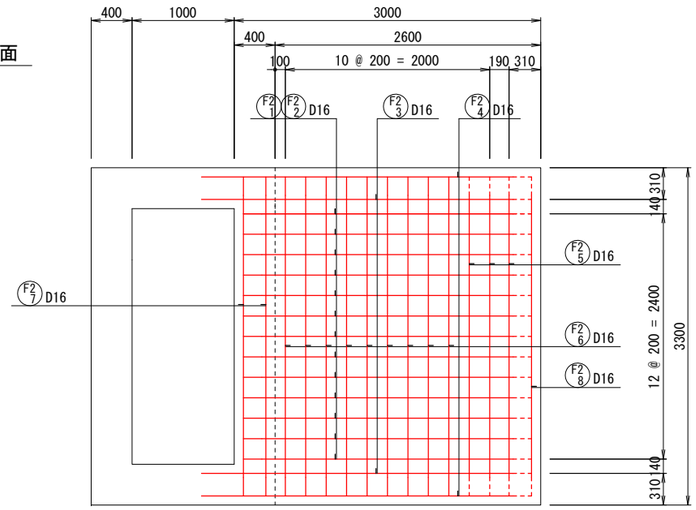
上　面



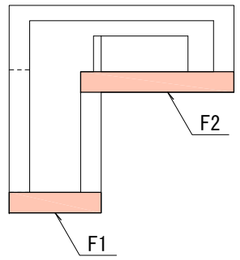
下　面



下　面



KEY PLAN



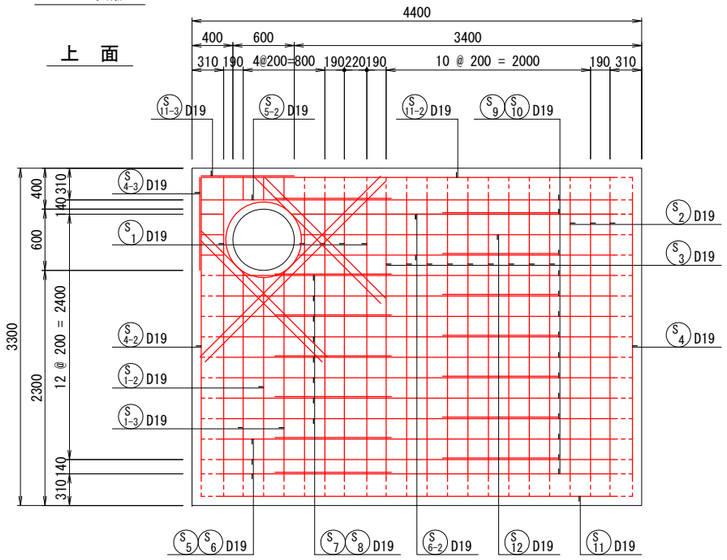
工事名	西泉調整池築造工事（３工区）		
図面名	分水人孔配筋図（その２）		
作成年月日			
縮尺	S=1/30	図面番号	10/32
工事箇所	行橋市西泉六丁目・七丁目		
行橋市環境水道部下水道課			

分水人孔配筋図（その３）　S=1/30

（ No.3 ）

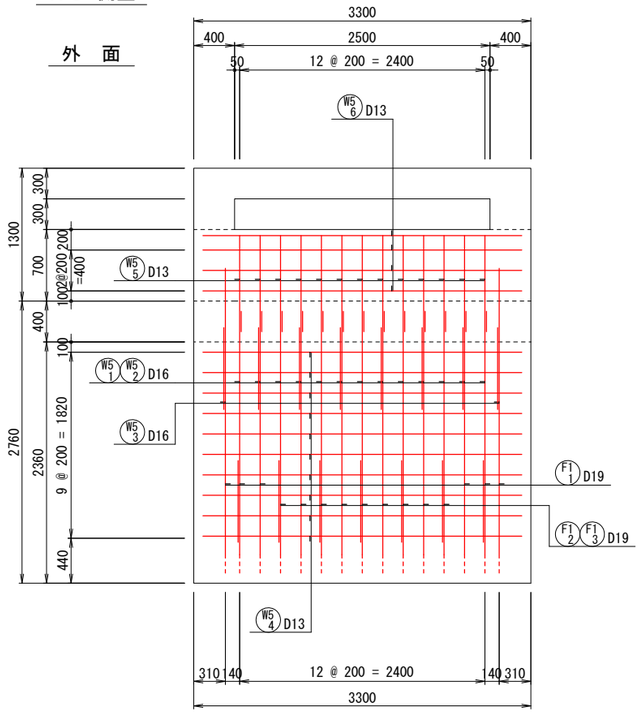
S　頂版

上　面

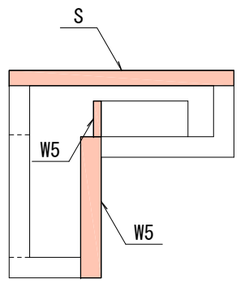


W５ 側壁

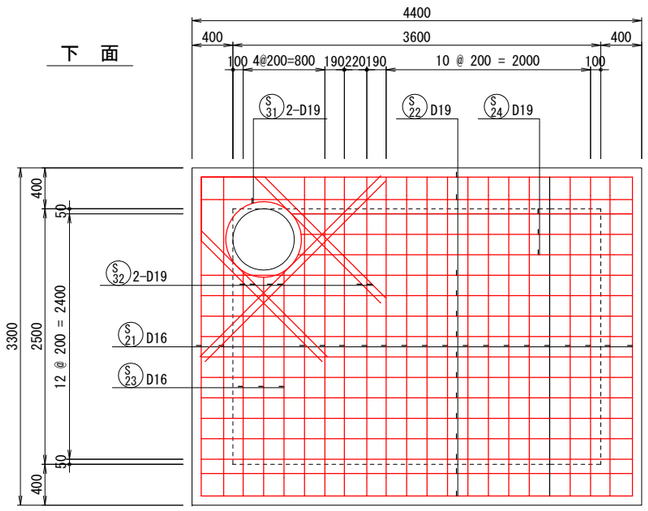
外　面



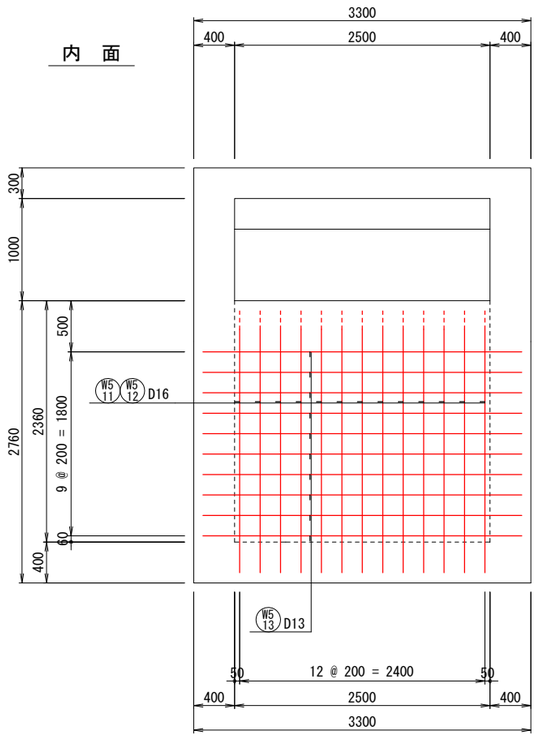
KEY PLAN



下　面



内　面



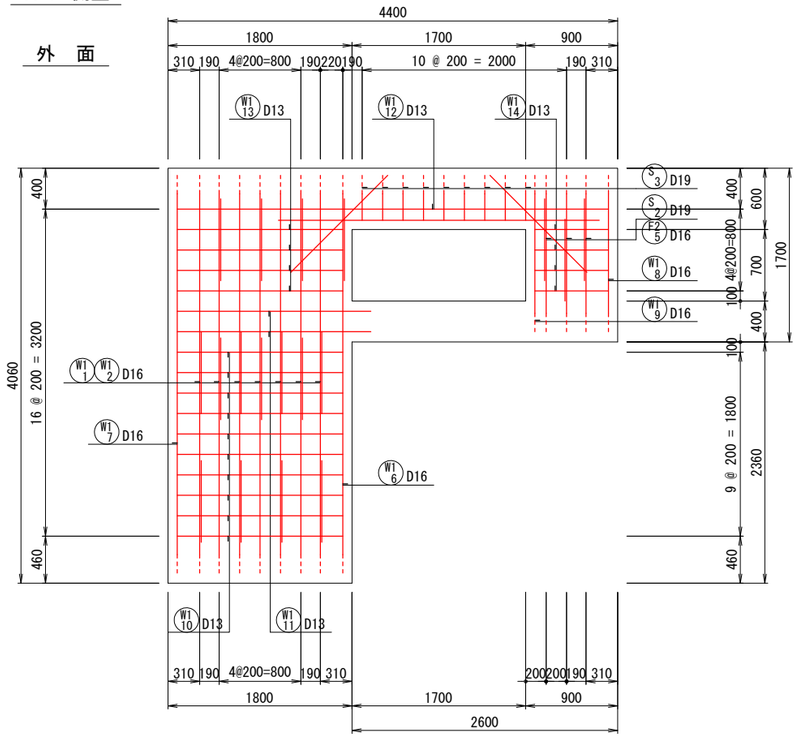
工事名	西泉調整池築造工事（３工区）		
図面名	分水人孔配筋図（その３）		
作成年月日			
縮尺	S=1/30	図面番号	11/32
工事箇所	行橋市西泉六丁目・七丁目		
行橋市環境水道部下水道課			

分水人孔配筋図（その４）　S=1/30

（ No.3 ）

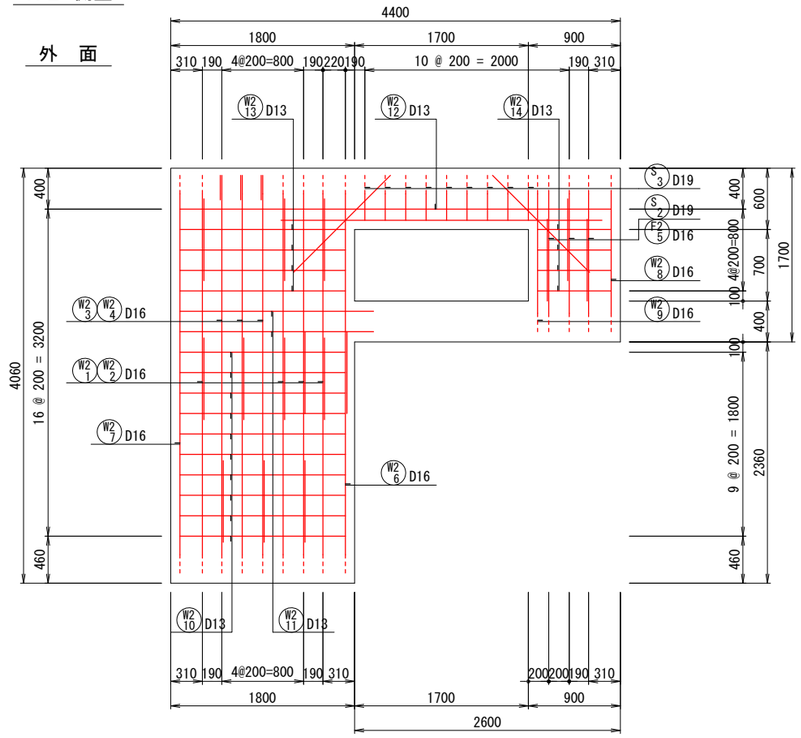
Ｗ１ 側壁

外　面

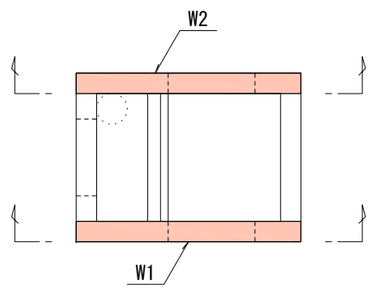


Ｗ２ 側壁

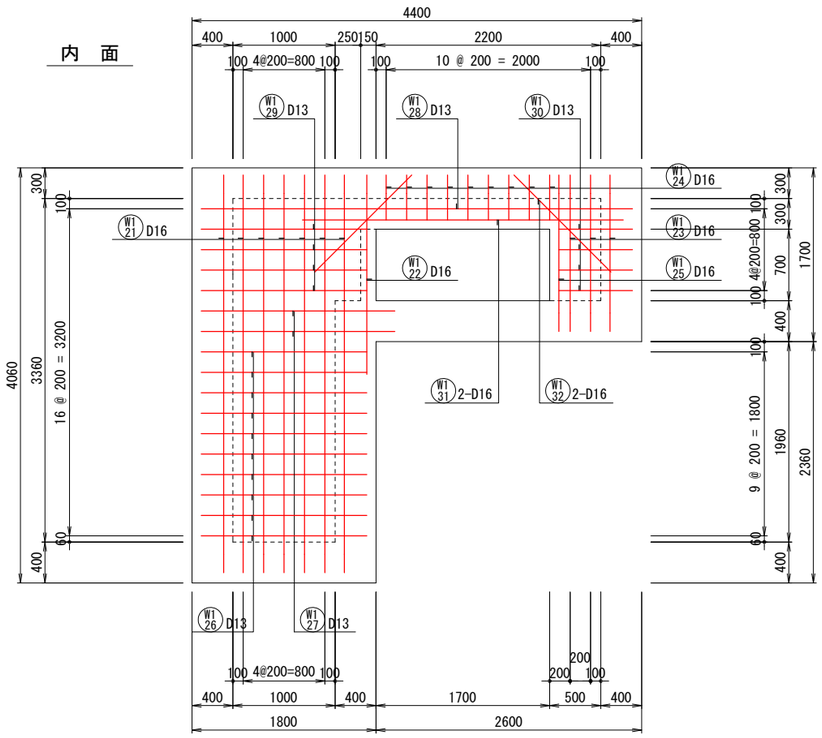
外　面



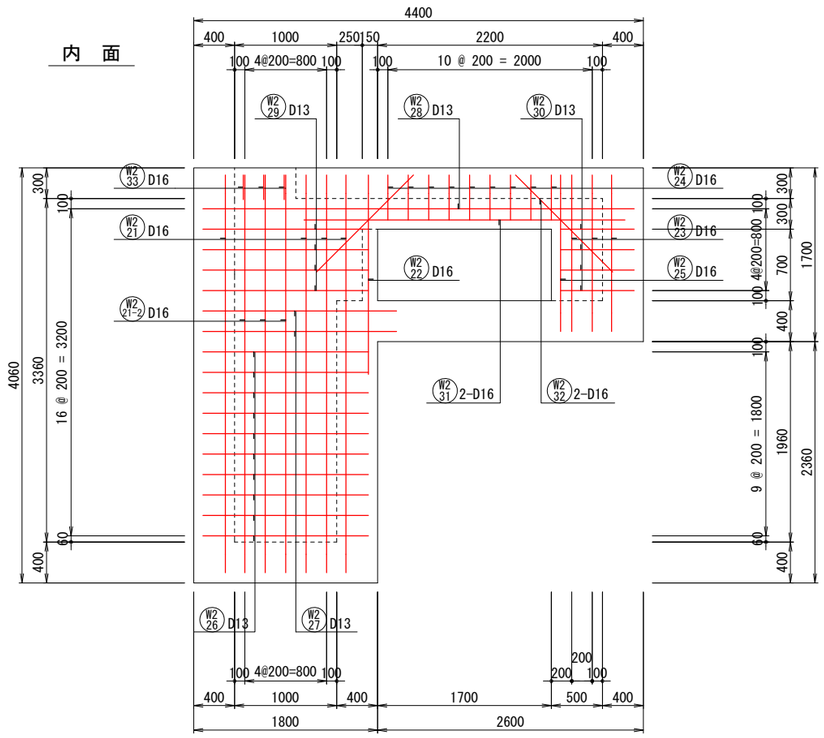
KEY PLAN



内　面



内　面



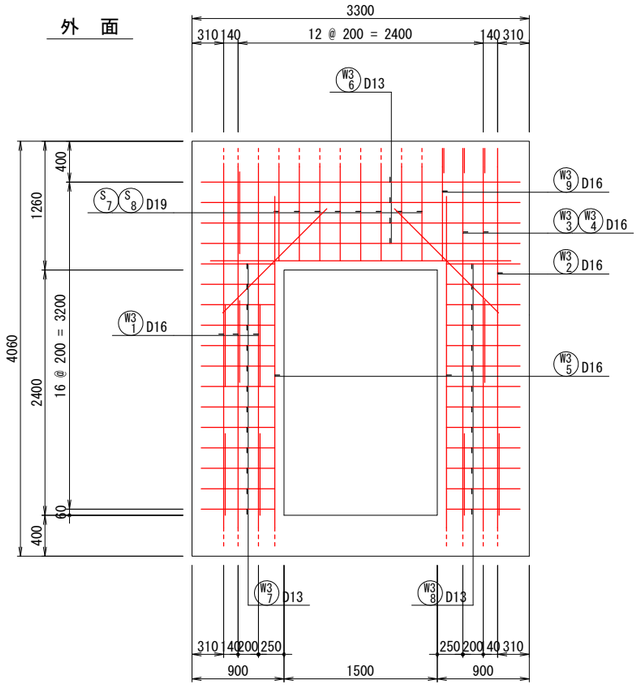
工事名	西泉調整池築造工事（３工区）		
図面名	分水人孔配筋図（その４）		
作成年月日			
縮尺	S=1/30	図面番号	12/32
工事箇所	行橋市西泉六丁目・七丁目		
行橋市環境水道部下水道課			

分水人孔配筋図（その５）　S=1/30

（ No.3 ）

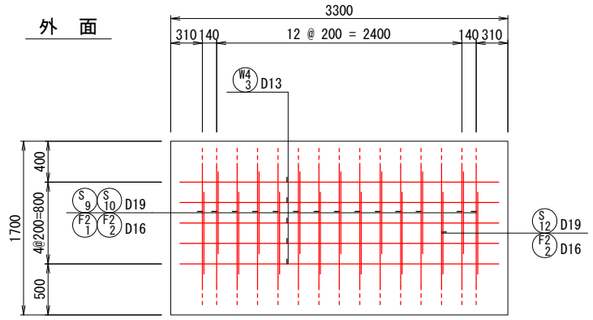
Ｗ３ 側壁

外　面

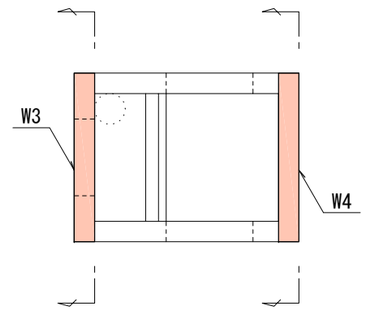


Ｗ４ 側壁

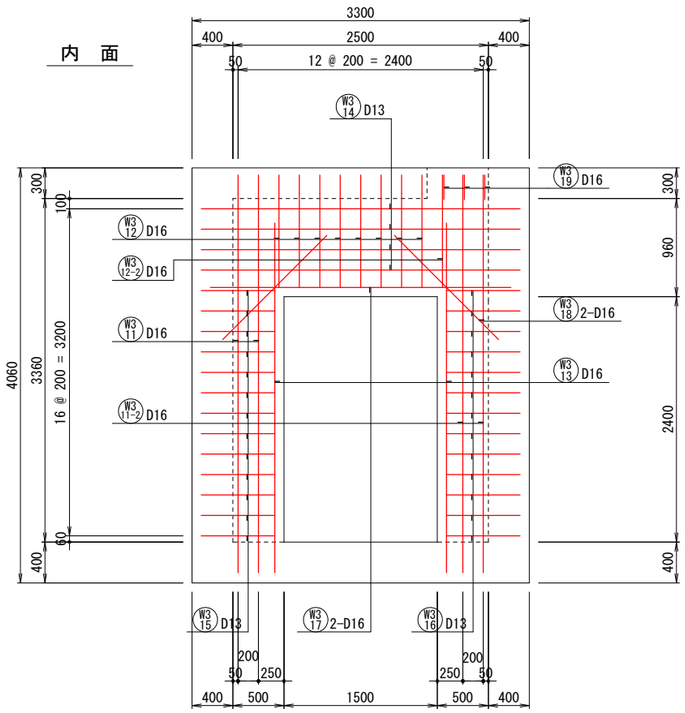
外　面



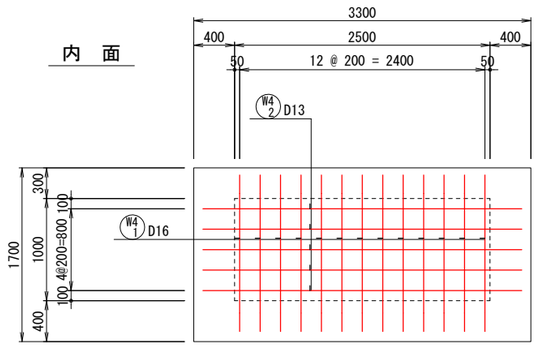
KEY PLAN



内　面



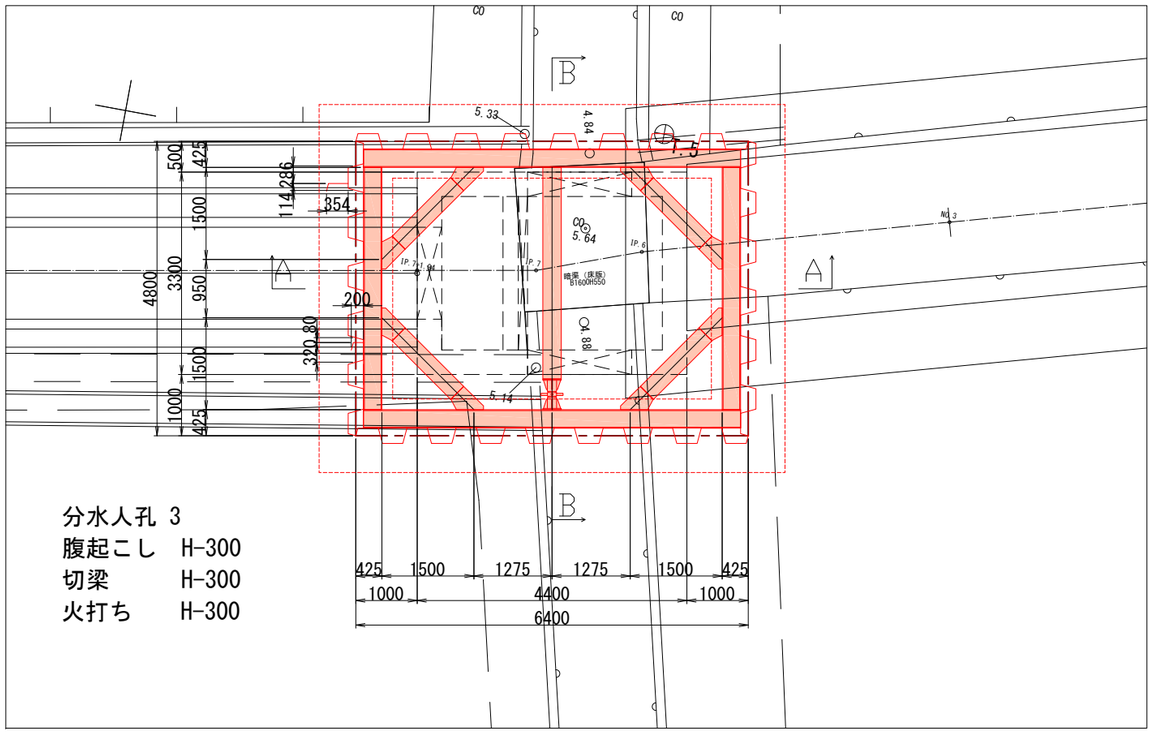
内　面

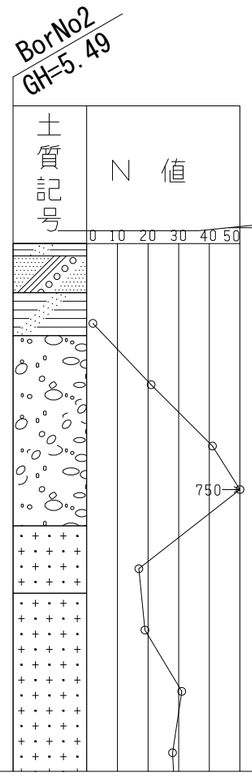


工事名	西泉調整池築造工事（３工区）		
図面名	分水人孔配筋図（その５）		
作成年月日			
縮尺	S=1/30	図面番号	13/32
工事箇所	行橋市西泉六丁目・七丁目		
行橋市環境水道部下水道課			

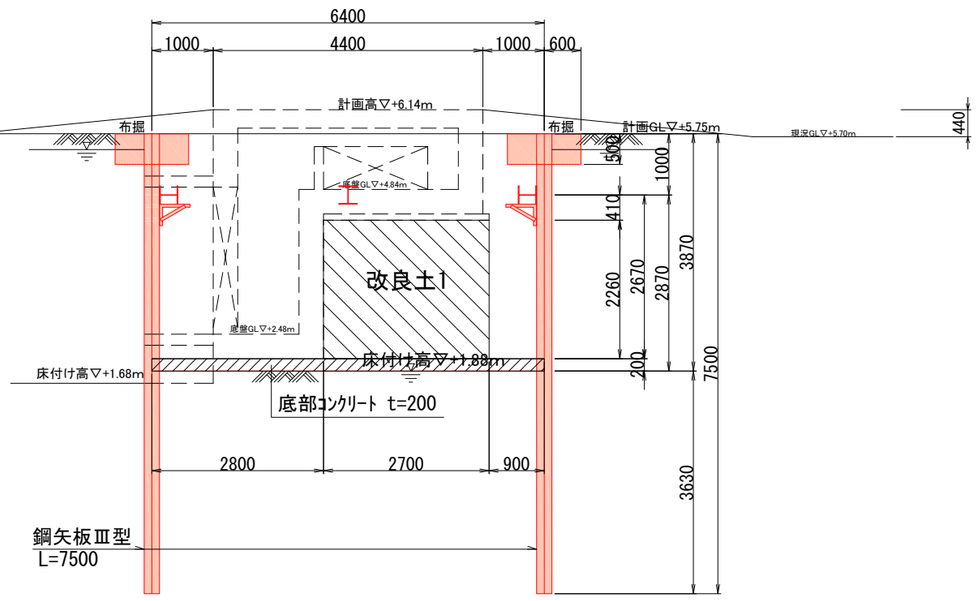
分水人孔仮設図　　S＝1：50

平面図

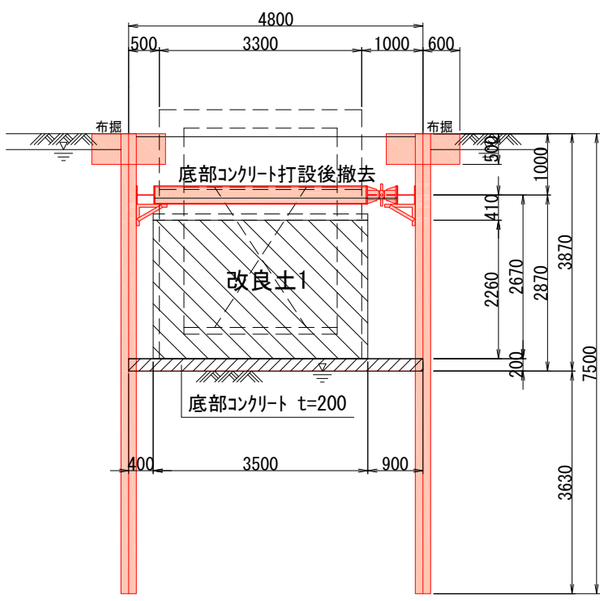




A－A

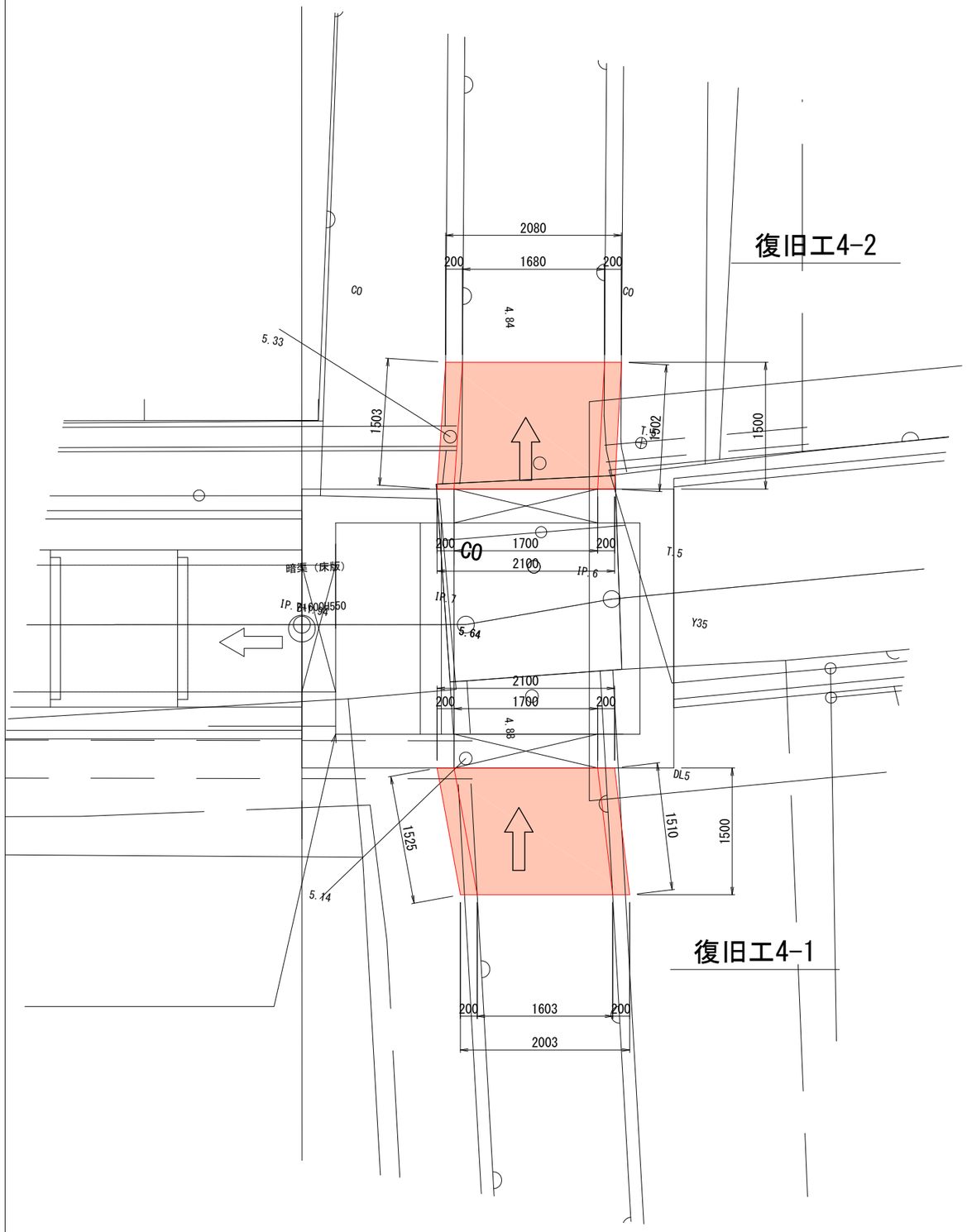


B－B

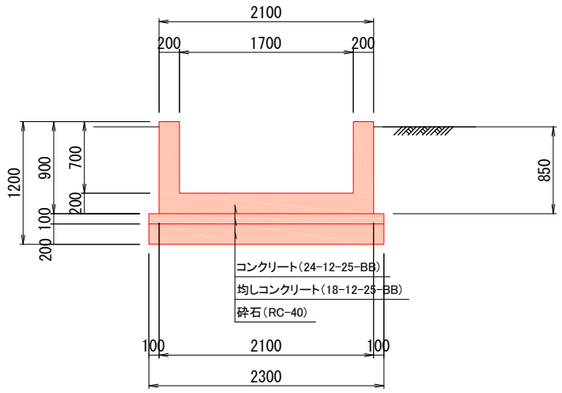


工事名	西泉調整池築造工事（３工区）		
図面名	分水人孔仮設図		
作成年月日			
縮尺	S=1/50	図面番号	14/32
工事箇所	行橋市西泉六丁目・七丁目		
行橋市環境水道部下水道課			

既設水路復旧図　　S＝1：30

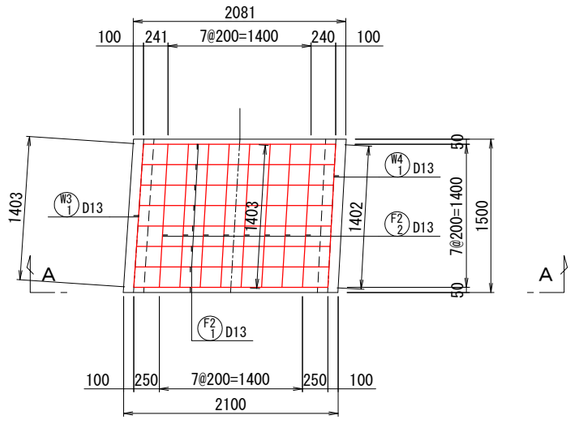


水路復旧工
As=0.700m2

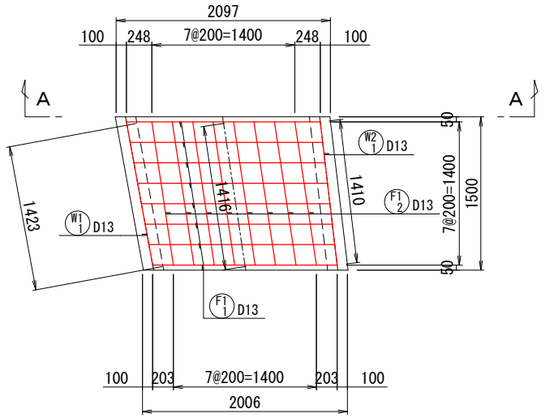


配筋図

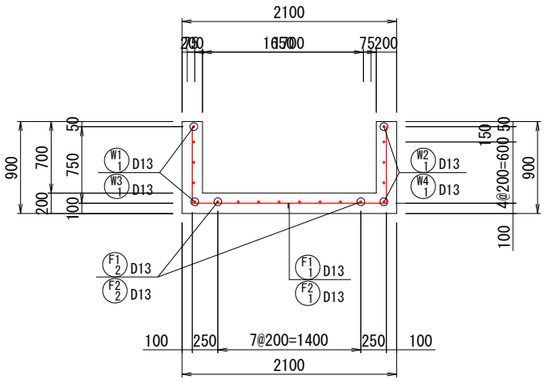
復旧工4-2底版平面図



復旧工4-1底版平面図



断面図
A－A

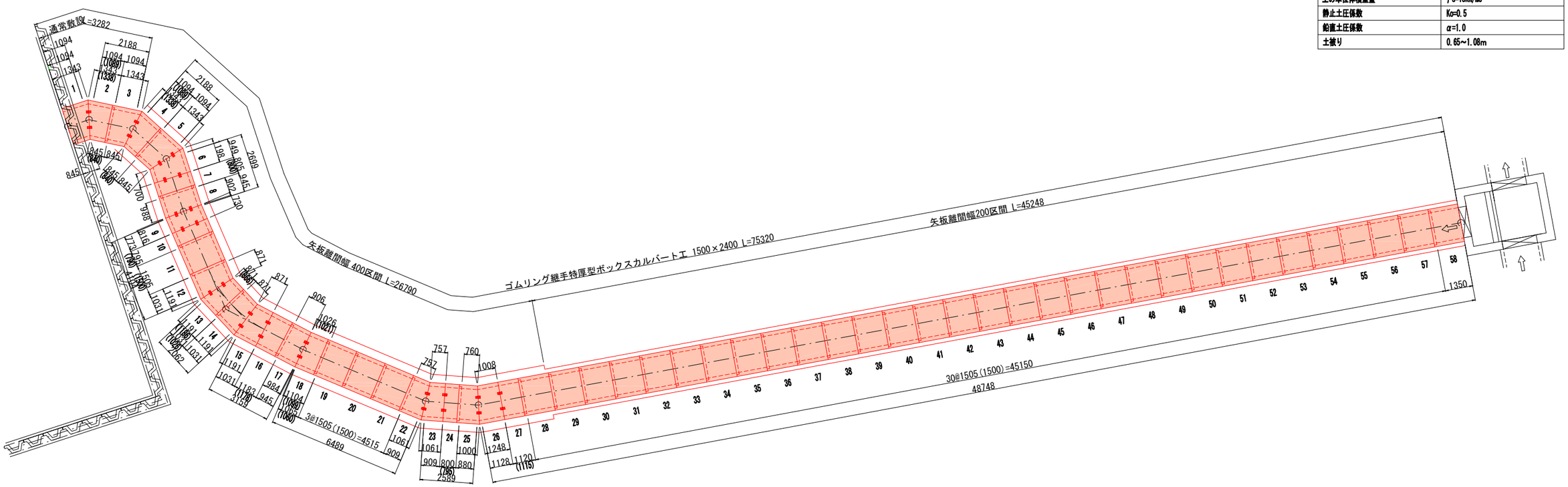


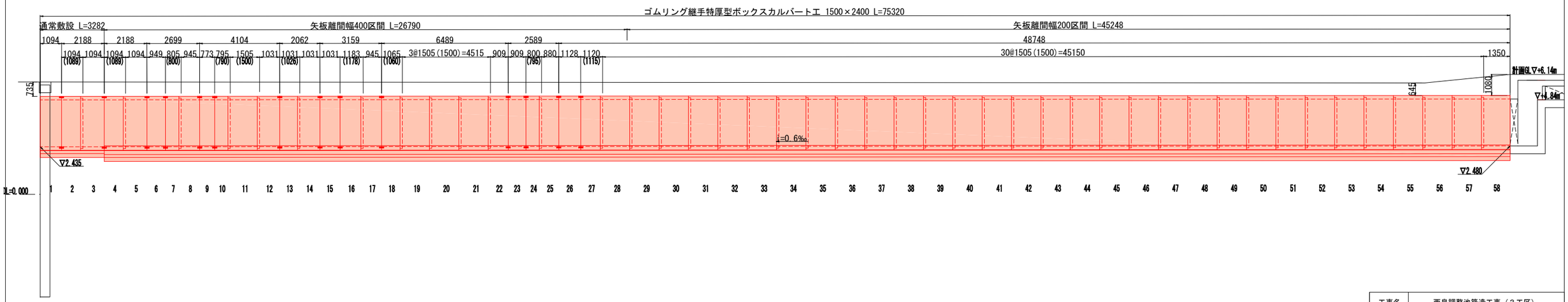
工事名	西泉調整池築造工事（３工区）		
図面名	既設水路復旧図		
作成年月日			
縮尺	S=1/30	図面番号	15/32
工事箇所	行橋市西泉六丁目・七丁目		
行橋市環境水道部下水道課			

ゴムリング継手ボックスカルバート工　構造図(その1)

設計条件

活荷重	T-25　(T荷重)
土の単位体積重量	γs=18kN/m3
静止土圧係数	Ko=0.5
鉛直土圧係数	α=1.0
土被り	0.65~1.08m





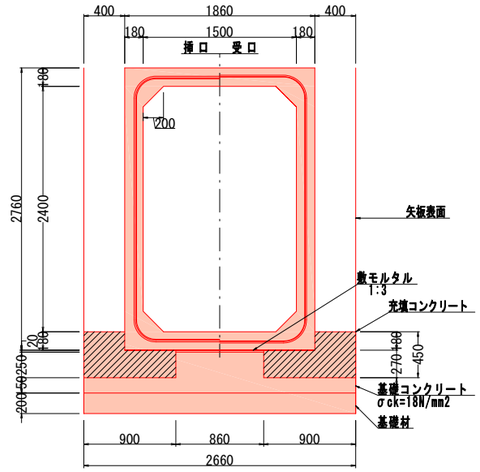
工事名	西泉調整池築造工事（３工区）		
図面名	ゴムリング継手ボックスカルバート工 構造図(その1)		
作成年月日			
縮尺	S=1/100	図面番号	16/32
工事箇所	行橋市西泉六丁目・七丁目		
行橋市環境水道部下水道課			

ゴムリング継手ボックスカルバート工　構造図(その2)（参考図）

設計条件

活荷重	T-25　(T荷重)
土の単位体積重量	γs=18kN/m3
静止土圧係数	Ko=0.5
鉛直土圧係数	α=1.0
土被り	0.65～1.08m

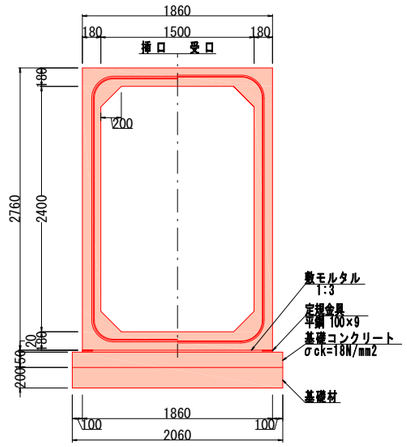
台車横引き布設(曲線部)区間 標準断面図 S=1:30
ゴムリング継手特厚型ボックスカルバート 1500×2400



ゴムリング継手ボックスカルバート工(台車横引き曲線区間)　数量表　10.00m当り

種　別	摘　要	計　算　式	数　量	単位
基礎材	t=200mm	2.66×10.00	26.60	m2
基礎型枠		(0.15+0.25)×10.00×2	8.00	m2
基礎コンクリート	σck=18N/mm2	(2.66×0.15+0.86×0.25)×10.00	6.14	m3
敷モルタル	1:3	0.86×10.00×0.02	0.17	m3
充填コンクリート		(0.90×0.27+0.40×0.18)×10.00×2	6.30	m3
ボックスカルバート	特厚型 1500×2400	L=10.00	10.00	m

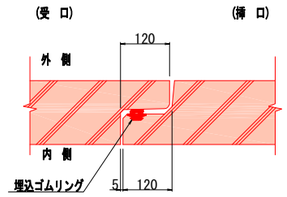
通常布設区間 標準断面図 S=1:30
ゴムリング継手特厚型ボックスカルバート 1500×2400



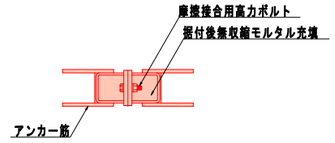
ゴムリング継手ボックスカルバート工(通常布設区間)　数量表　10.00m当り

種　別	摘　要	計　算　式	数　量	単位
基礎材	t=200mm	2.06×10.00	20.60	m2
基礎型枠		0.15×10.00×2	3.00	m2
基礎コンクリート	σck=18N/mm2	2.06×10.00×0.15	3.09	m3
敷モルタル	1:3	1.86×10.00×0.02	0.37	m3
定規金具	平鋼 100×9 L=500	5×0.50×2	5.00	m
ボックスカルバート	特厚型 1500×2400	L=10.00	10.00	m

継手部詳細図

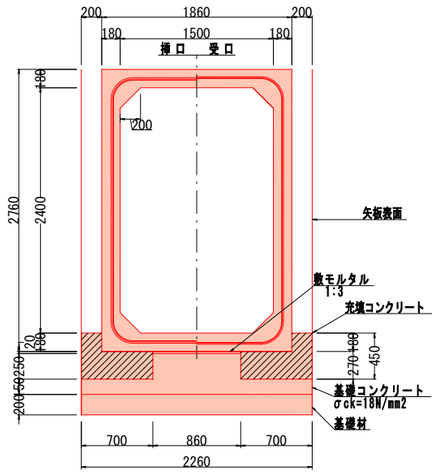


ボルト連結継手部詳細図



※トルク値　Tr=50N･m(ボルト連結)

台車横引き布設(直線部)区間 標準断面図 S=1:30
ゴムリング継手特厚型ボックスカルバート 1500×2400



ゴムリング継手ボックスカルバート工(台車横引き直線区間)　数量表　10.00m当り

種　別	摘　要	計　算　式	数　量	単位
基礎材	t=200mm	2.26×10.00	22.60	m2
基礎型枠		(0.15+0.25)×10.00×2	8.00	m2
基礎コンクリート	σck=18N/mm2	(2.26×0.15+0.86×0.25)×10.00	5.54	m3
敷モルタル	1:3	0.86×10.00×0.02	0.17	m3
充填コンクリート		(0.70×0.27+0.20×0.18)×10.00×2	4.50	m3
ボックスカルバート	特厚型 1500×2400	L=10.00	10.00	m

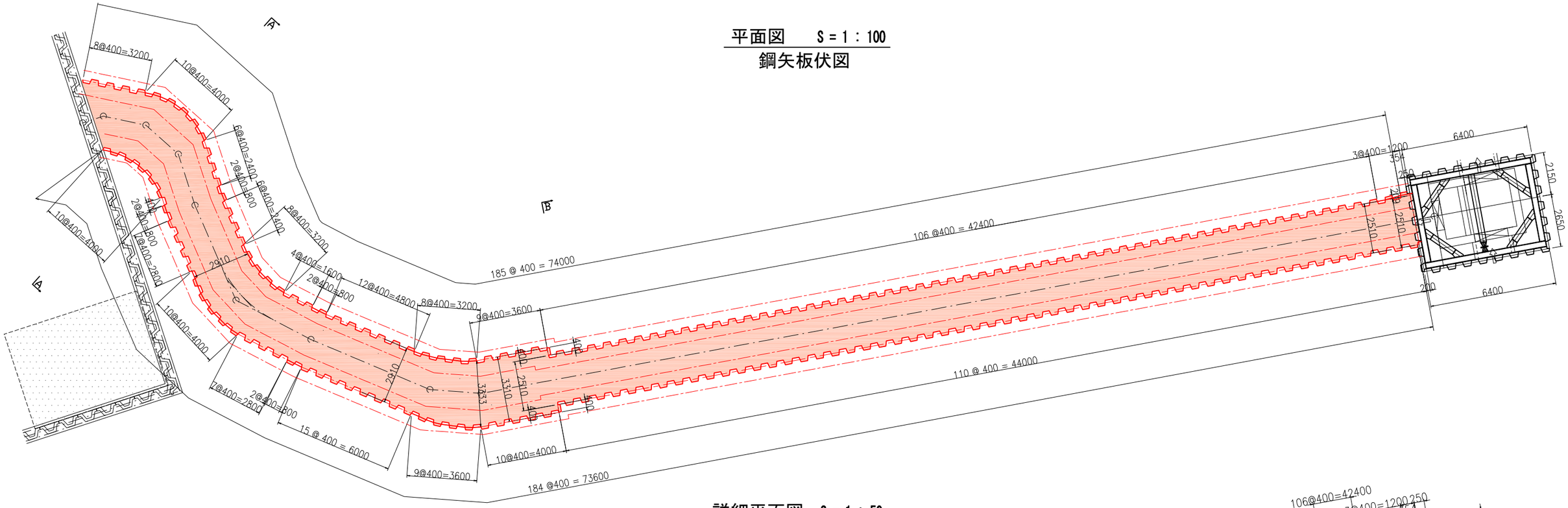
函体数量表

規格	製品長		種別	数量	函体番号
ロ-特厚型1500×2400	L=1500		基本 凸凹付	34	№11・19～21・28～57
ゴムリング継手	L=1094	(845/1343)ボルト連結	斜切 凸凹無	1	№1
	L=1089	(840/1338)ボルト連結	斜切 凸凹付回転	2	№2・4
	L=1094	(845/1343)ボルト連結	斜切 凸無凹付	2	№3・5
	L= 949	(700/1198)ボルト連結	斜切 凸凹無	1	№6
	L= 800	ボルト連結	短尺 凸付回転	1	№7
	L= 945	(988/ 902)ボルト連結	斜切 凸無凹付	1	№8
	L= 773	(816/ 730)ボルト連結	斜切 凸凹無	1	№9
	L= 790	ボルト連結	短尺 凸付回転	1	№10
	L=1031	(1191/ 871)ボルト連結	斜切 凸無凹付	2	№12・14
	L=1026	(1186/ 866)ボルト連結	斜切 凸付回転	1	№13
	L=1031	(1191/ 871)ボルト連結	斜切 凸凹無	1	№15
	L=1178	ボルト連結	短尺 凸付回転	1	№16
	L= 945	(984/ 906)ボルト連結	斜切 凸無凹付	1	№17
	L=1060	(1099/1021)ボルト連結	斜切 凸付回転	1	№18
	L= 909	(1061/ 757)ボルト連結	斜切 凸無凹付	1	№22
	L= 909	(1061/ 757)ボルト連結	斜切 凸凹無	1	№23
	L= 795	ボルト連結	短尺 凸付回転	1	№24
	L= 880	(1000/ 760)ボルト連結	斜切 凸無凹付	1	№25
	L=1128	(1248/1008)ボルト連結	斜切 凸凹無	1	№26
	L=1115	ボルト連結	短尺 凸付回転	1	№27
	L=1350	ボルト連結	短尺 凸無凹付	1	№58

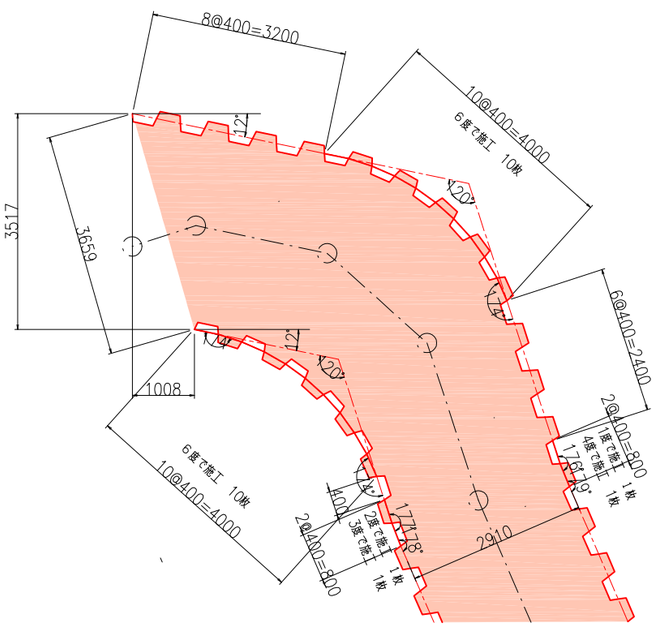
工事名	西泉調整池築造工事（３工区）		
図面名	ゴムリング継手ボックスカルバート工 構造図(その2)（参考図）		
作成年月日			
縮尺	図示	図面番号	17/32
工事箇所	行橋市西泉六丁目・七丁目		
行橋市環境水道部下水道課			

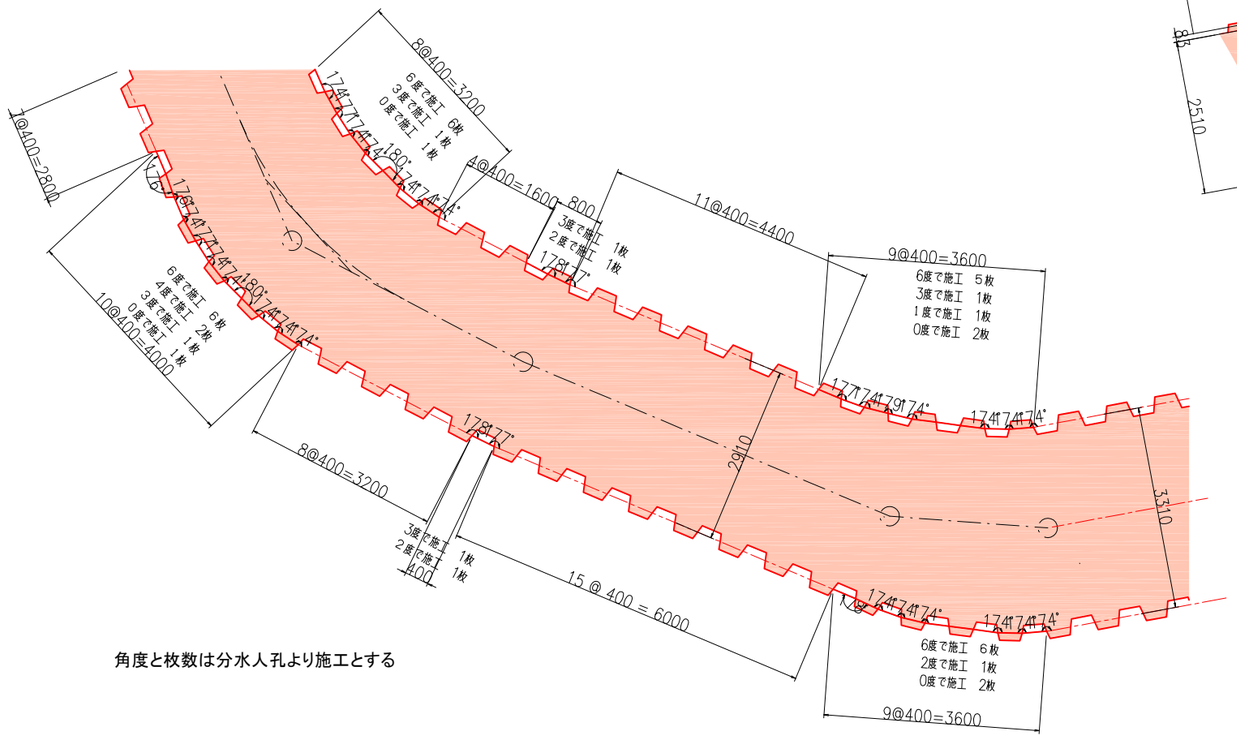
導水渠仮設図（その1）

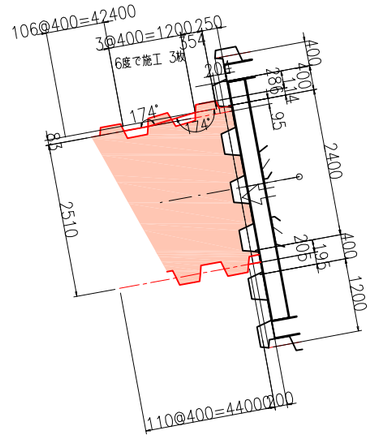
平面図　S＝1：100
鋼矢板伏図



詳細平面図　S＝1：50
鋼矢板伏図





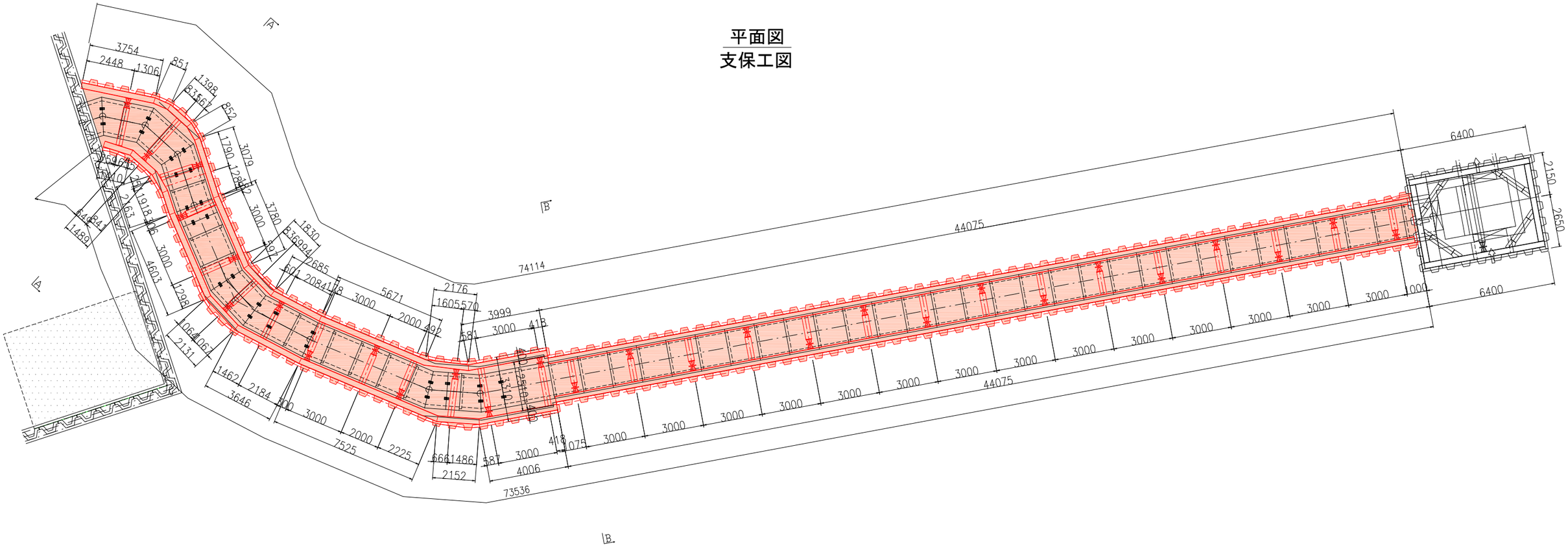


角度と枚数は分水人孔より施工とする

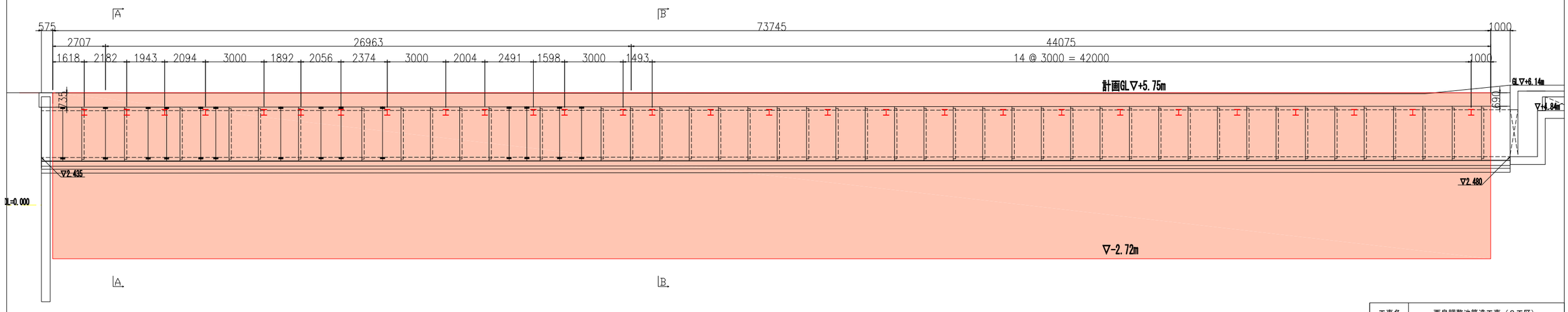
工事名	西泉調整池築造工事（３工区）		
図面名	導水渠仮設図（その１）		
作成年月日			
縮尺	図示	図面番号	18/32
工事箇所	行橋市西泉六丁目・七丁目		
行橋市環境水道部下水道課			

導水渠仮設図（その2） S＝1：100

平面図
支保工図

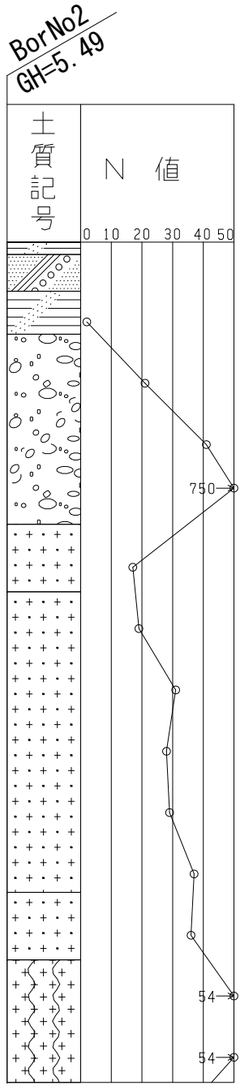


縦断図

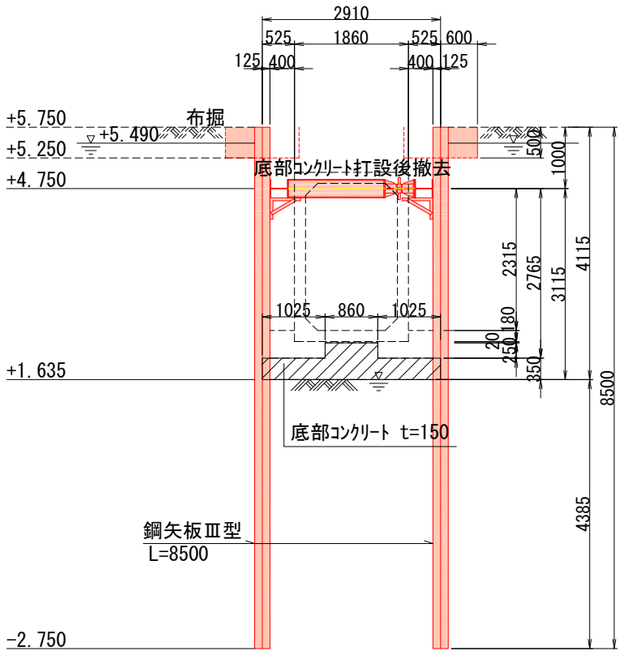


工事名	西泉調整池築造工事（３工区）		
図面名	導水渠仮設図（その２）		
作成年月日			
縮尺	S=1/100	図面番号	19/32
工事箇所	行橋市西泉六丁目・七丁目		
行橋市環境水道部下水道課			

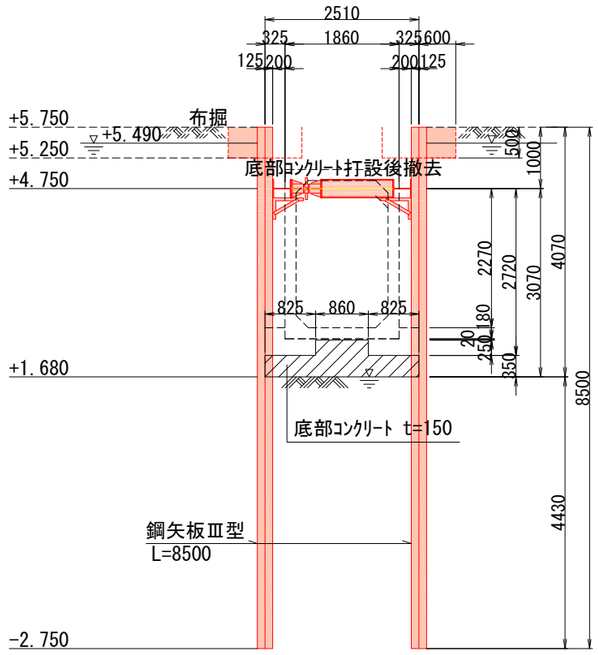
導水渠仮設図（その3）　S＝1：50



A-A断面図
曲線部標準図



B-B断面図
直線部

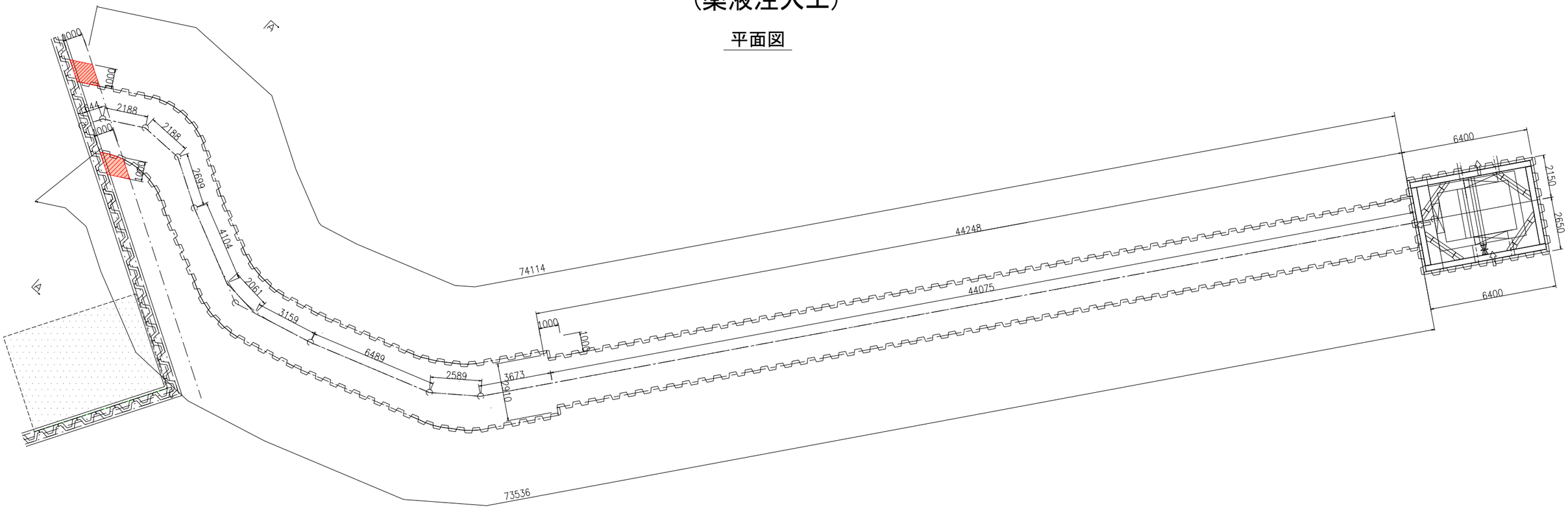


注1）鋼矢板幅は　2910～3310まで変化する

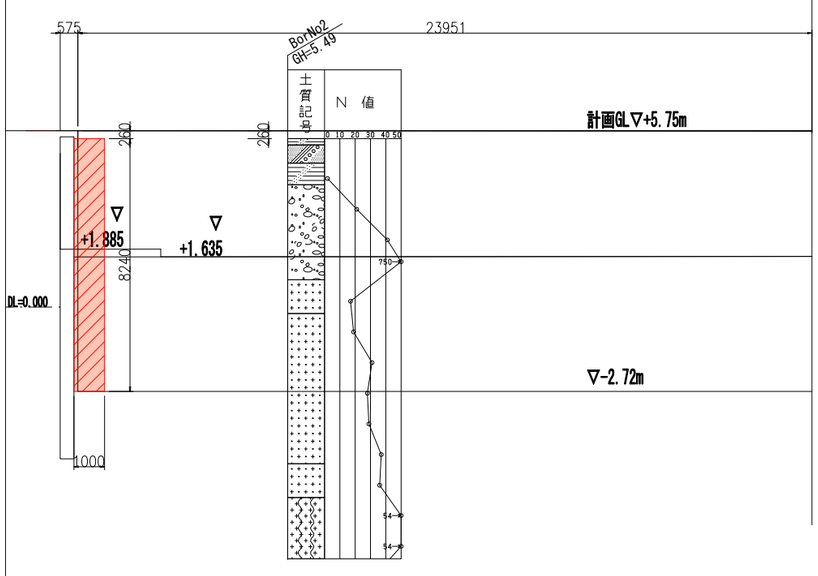
工事名	西泉調整池築造工事（３工区）		
図面名	導水渠仮設図（その３）		
作成年月日			
縮尺	S=1/50	図面番号	20/32
工事箇所	行橋市西泉六丁目・七丁目		
行橋市環境水道部下水道課			

導水渠仮設図（その4）　S＝1：100
（薬液注入工）

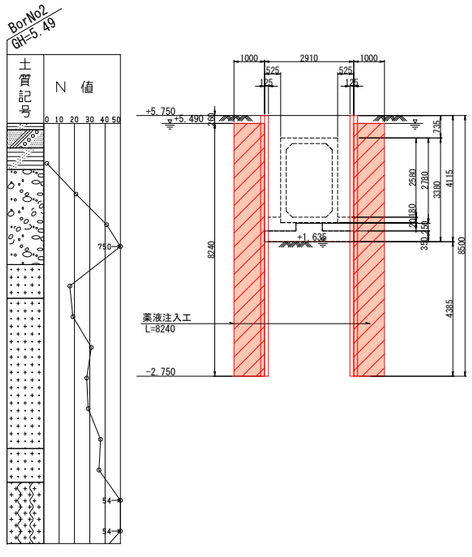
平面図



縦断図



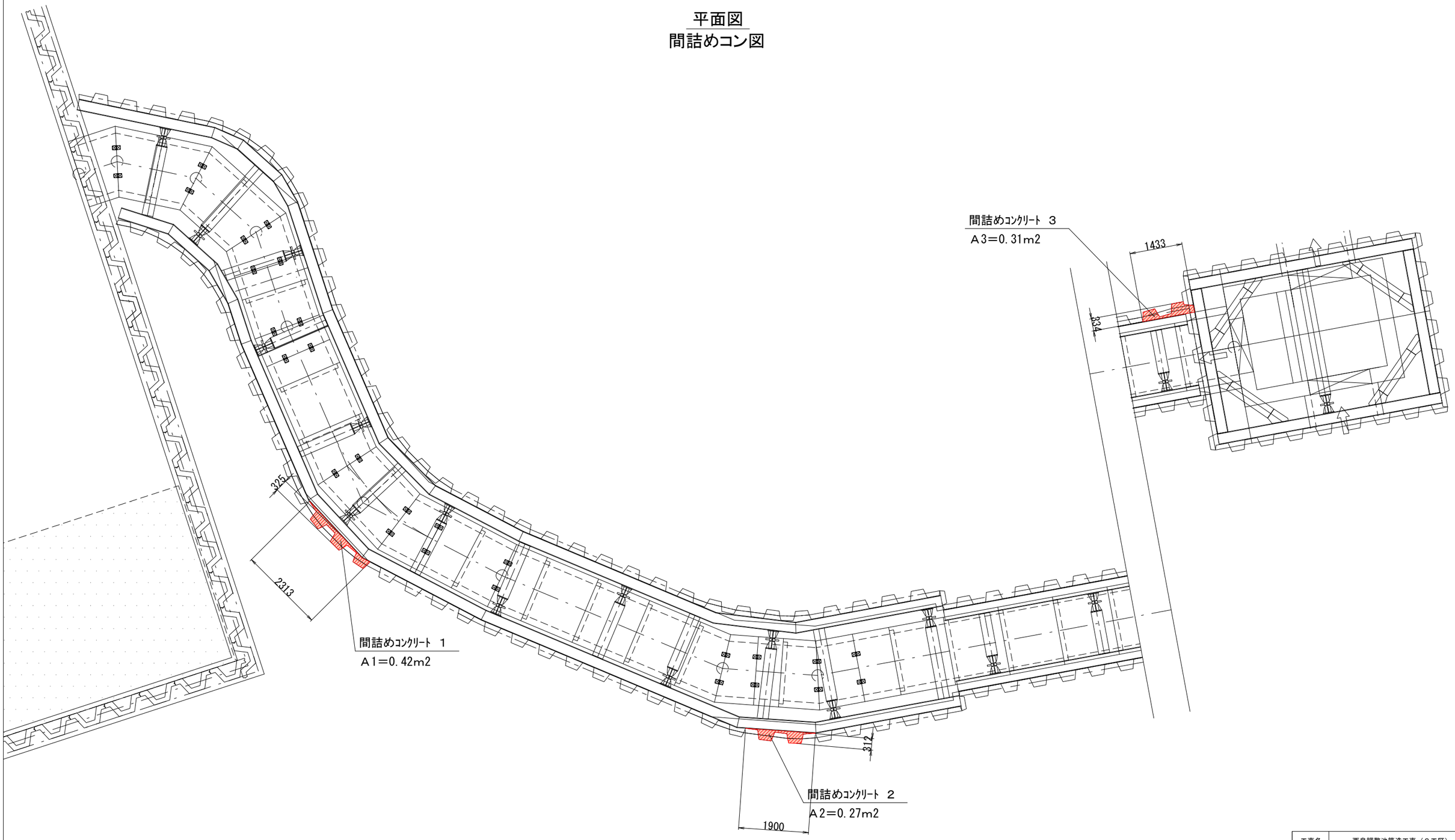
A-A断面図
曲線部



工事名	西泉調整池築造工事（３工区）		
図面名	導水渠仮設図（その４）		
作成年月日			
縮尺	S=1/100	図面番号	21/32
工事箇所	行橋市西泉六丁目・七丁目		
行橋市環境水道部下水道課			

導水渠仮設図（その5）　S＝1：50

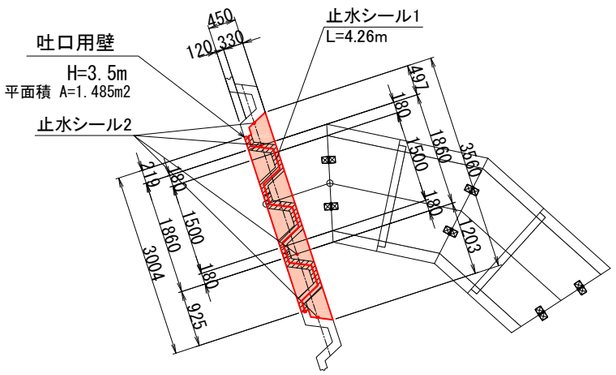
平面図
間詰めコン図



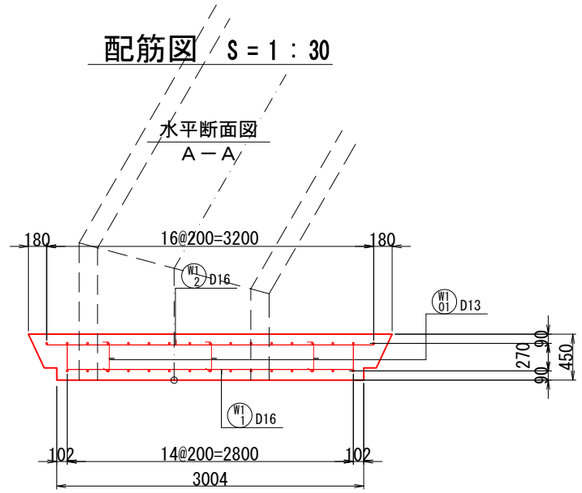
工事名	西泉調整池築造工事（３工区）		
図面名	導水渠仮設図（その４）		
作成年月日			
縮尺	S=1/50	図面番号	22/32
工事箇所	行橋市西泉六丁目・七丁目		
行橋市環境水道部下水道課			

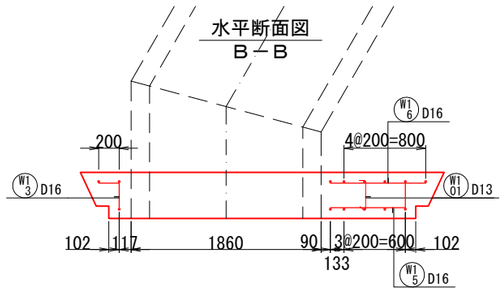
コンクリート壁　S＝1：50
（導水渠吐口部）

平面図　S＝1：50

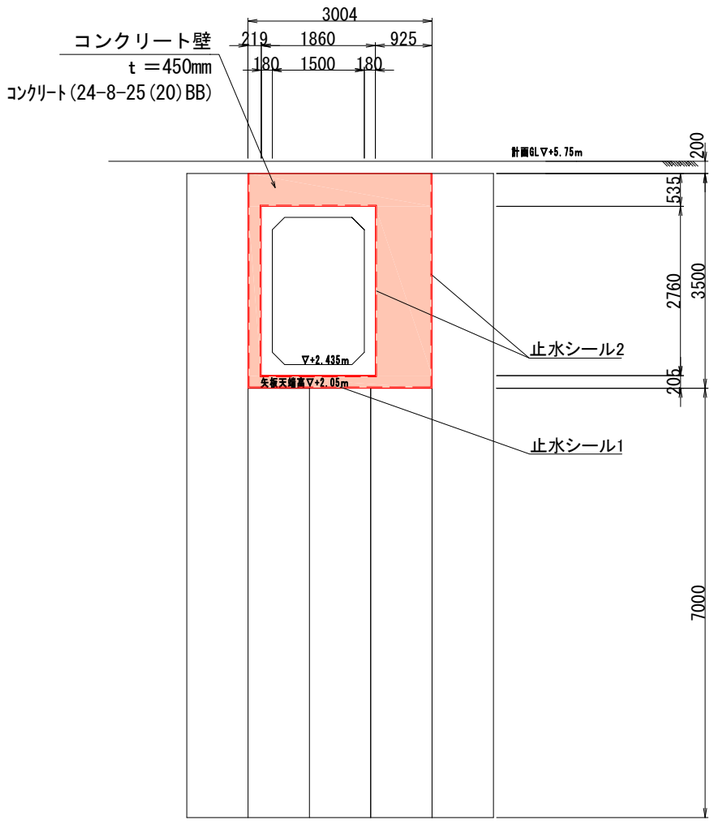


配筋図　S＝1：30

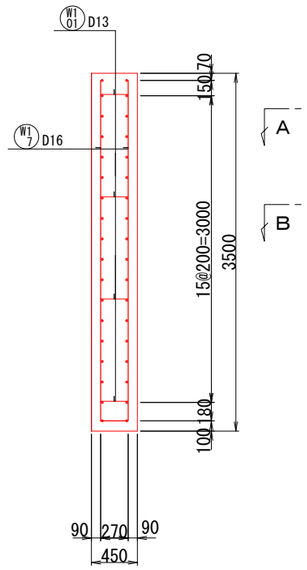




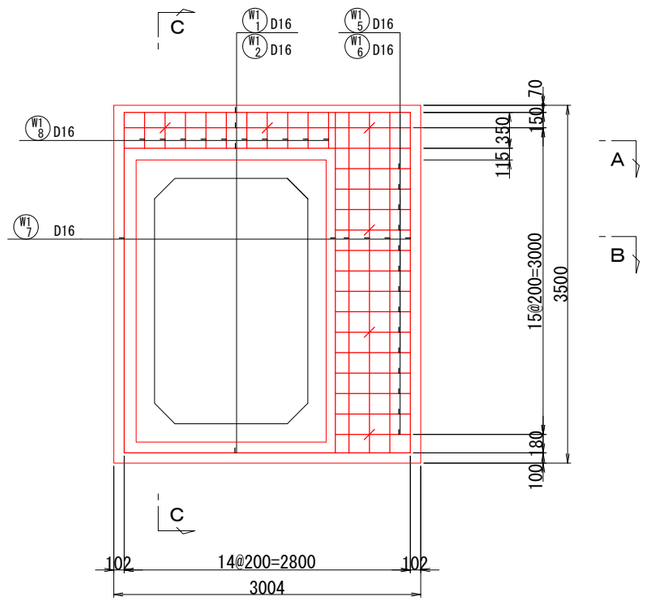
正面図　S＝1：50



断面図
C－C



正面図



共通事項

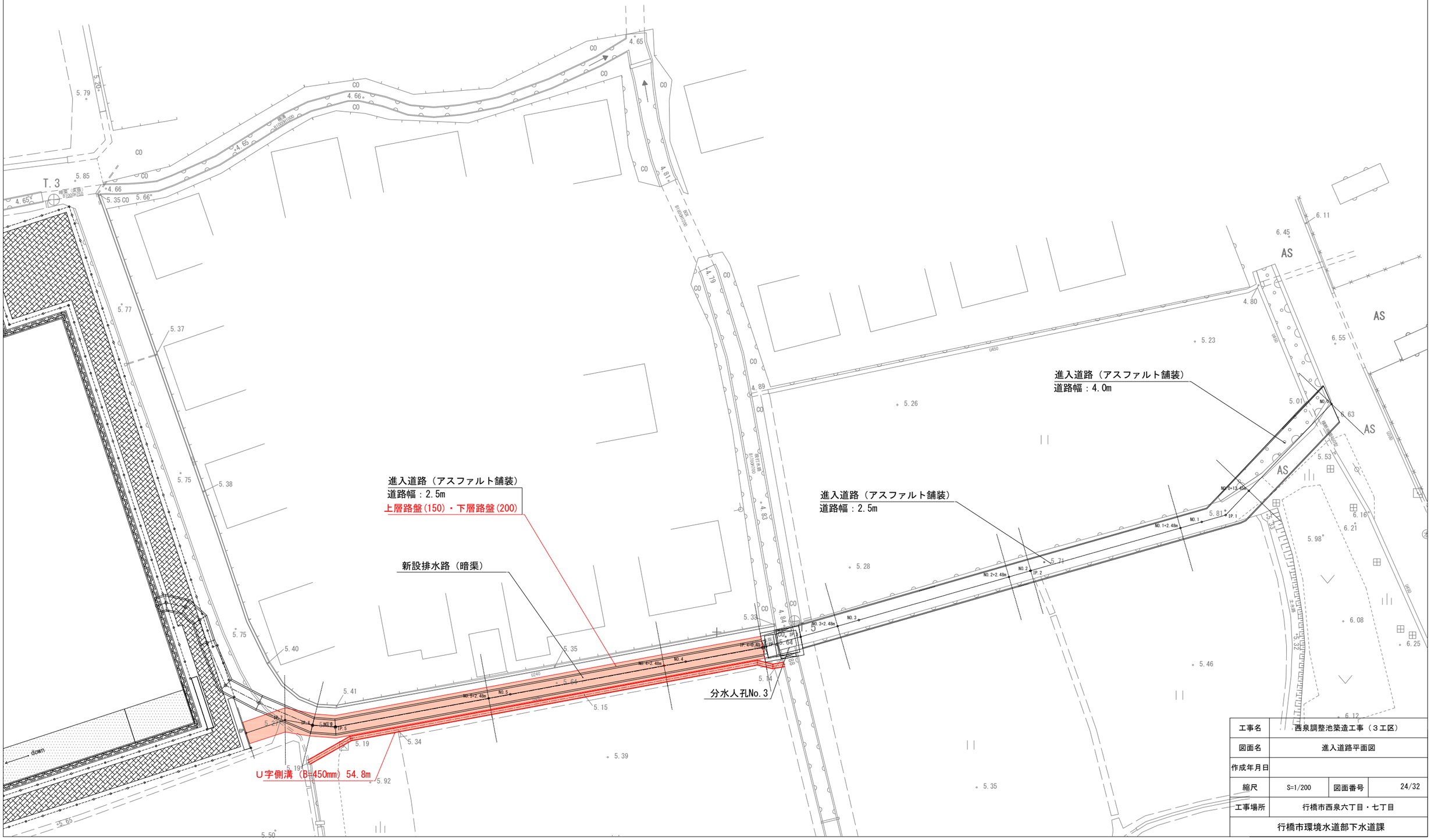
1） 鉄筋かぶり （芯かぶり）
底版・頂版は内側の鉄筋とする。
壁は外側の鉄筋とする。

頂版	上面	70
	下面	70
側壁	外面	90
	内面	90
底版	上面	100
	下面	100

2） 巾止めは、1m² に１本とする。

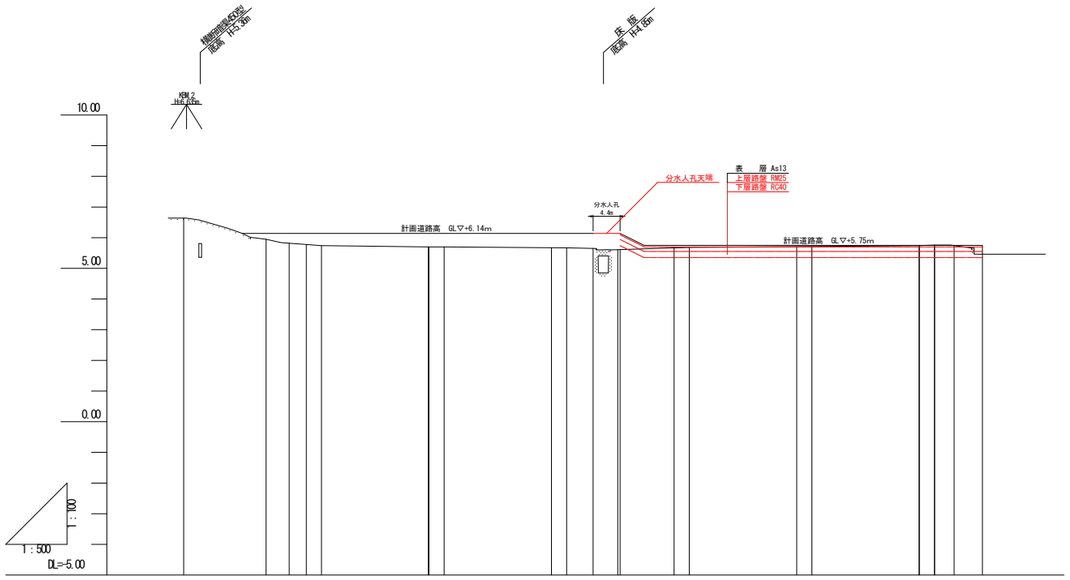
工事名	西泉調整池築造工事（３工区）		
図面名	コンクリート壁（導水渠吐口部）		
作成年月日			
縮尺	図示	図面番号	23/32
工事箇所	行橋市西泉六丁目・七丁目		
行橋市環境水道部下水道課			

進入道路平面図 S=1:200



工事名	西泉調整池築造工事（３工区）		
図面名	進入道路平面図		
作成年月日			
縮尺	S=1/200	図面番号	24/32
工事場所	行橋市西泉六丁目・七丁目		
行橋市環境水道部下水道課			

縦　断　図　縮尺 縦 S=1:100 横 S=1:500

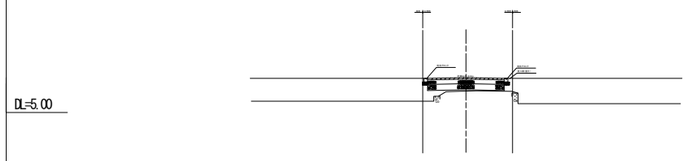


測点	地盤高	追加距離	単距離	計画高	切土	盛土	勾配
NO.0	6.53	0.00	0.00				
NO.0+13.45	5.95	13.45	13.45				
IP.1	5.82	17.21	3.76				
NO.1	5.74	20.00	2.79				
NO.1+2.48	5.74	22.48	2.48				
IP.2	5.70	38.94	17.46				
NO.2	5.70	40.00	0.06				
NO.2+2.48	5.70	42.48	2.48				
NO.3	5.67	60.00	17.52				
NO.3+2.48	5.67	62.48	2.48				
IP.3	5.60	66.78	4.30				
IP.4	5.61	70.80	4.02				
IP.4+0.40	5.61	71.20	0.40				
NO.4	5.68	80.00	8.80				
NO.4+2.48	5.68	82.48	2.48				
NO.5	5.71	100.00	17.52				
NO.5+2.48	5.71	102.48	2.48				
IP.5	5.74	120.00	17.52				
NO.6	5.74	120.00	0.00				
IP.6	5.76	122.48	2.48				
IP.7	5.76	125.67	3.19				
EP	5.46	130.28	4.61				

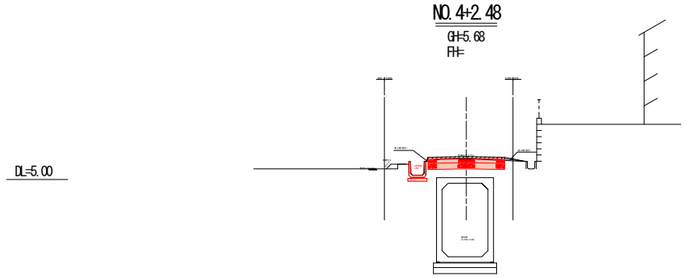
工事名	西泉調整池築造工事（３工区）		
図面名	進入道路計画縦断図		
作成年月日			
縮尺	縦 S=1/100 横 S=1/500	図面番号	25/32
工事場所	行橋市西泉六丁目・七丁目		
行橋市環境水道部下水道課			

横　断　図　縮尺　S=1:100

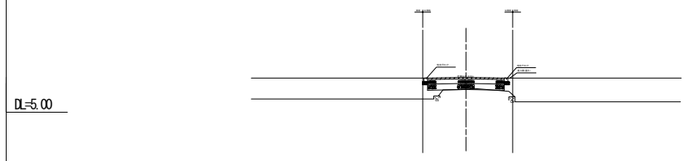
IP.2
GH=5.70
FH=



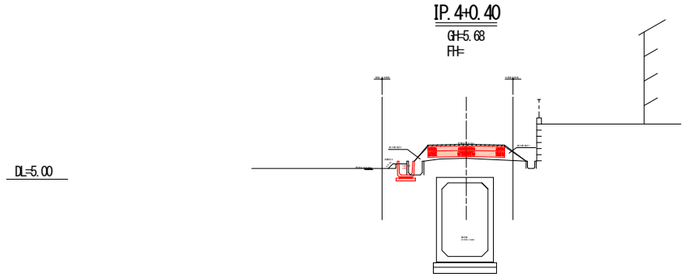
NO.4+2.48
GH=5.68
FH=



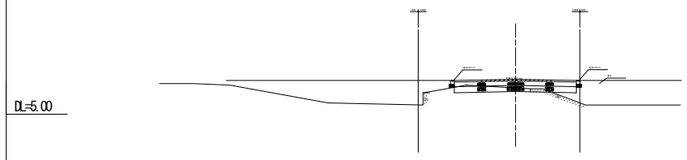
NO.1+2.48
GH=5.74
FH=



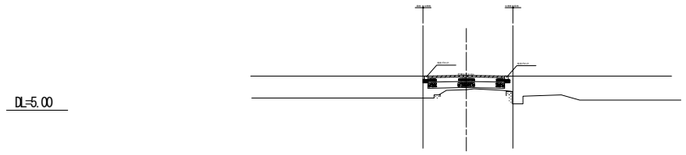
IP.4+0.40
GH=5.68
FH=



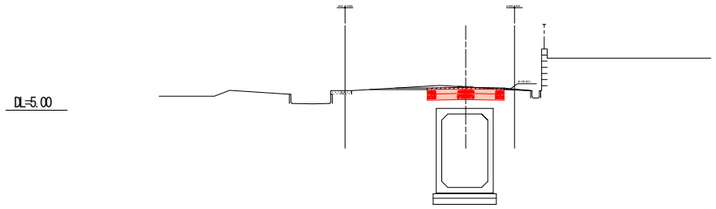
NO.0+13.45
GH=5.95
FH=



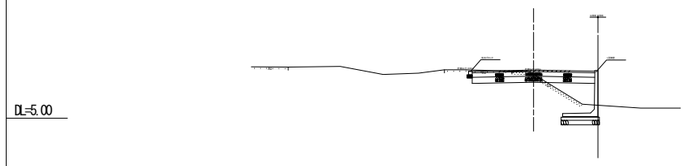
NO.3+2.48
GH=5.67
FH=



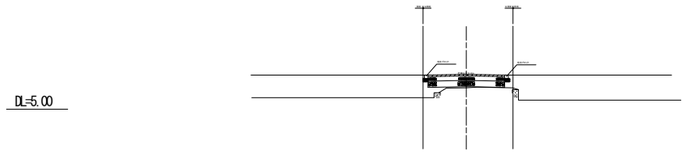
IP.6
GH=5.76
FH=



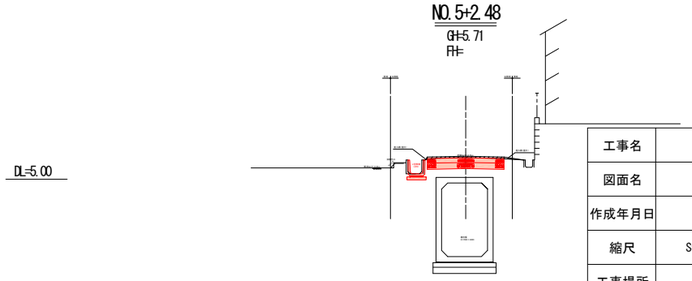
NO.0
GH=6.58
FH=



NO.2+2.48
GH=5.70
FH=



NO.5+2.48
GH=5.71
FH=



工事名	西泉調整池築造工事（３工区）		
図面名	進入道路計画横断図		
作成年月日			
縮尺	S=1/100	図面番号	26/32
工事場所	行橋市西泉六丁目・七丁目		
行橋市環境水道部下水道課			

構造細目共通図（複合構造物）

1　特記事項

1．1　適用範囲

（1）本構造細目共通図は、下水道施設における処理場、ポンプ場の複合構造物に適用する。
（2）土木工事と建築工事の区分は図面による。
（3）図面及び構造細目共通図に記載されていない事項は、下記に基づくものとし、これらに相違がある場合は監督職員に確認し指示を受ける。

土木工事		
建築工事	1）公共建築工事標準仕様書（建築工事編）　国土交通省大臣官房官庁営繕部	（平成 25 年版）

（4）項目は⊙印のついたものを適用する。⊙印のない場合は、※印のあるものを適用する。⊙印と※印のある場合は、共に適用する。

1．2　鉄筋の仕様

鉄筋の種類及び継手は1．2．1表による。

1．2．1表　鉄筋の種類及び継手

	種　別	径	
		土　木	建　築
鉄筋の種類	SD 295A	――――	・D16　以下 ・
	※SD 345 ・SD 390 ・SD 490	※ D13　以上 ・	――――
	SD 345	――――	・D19　以上
鉄筋の継手	重ね継手	下記以外	
	ガス圧接	※D19以上の柱、梁主筋 ※D16以上の増設端の床、壁鉄筋 ・	・D19以上、D29以下の柱、梁主筋 ・
	機械式継手	・図面による。	

1．3　コンクリートの仕様

コンクリートは1．3．1表による。

1．3．1表　コンクリートの仕様

分　類			コンクリート種別	設計基準強度 (N/mm²)	スランプ (cm)	セメントの種類
土木	鉄筋コンクリート		※普通　コンクリート ・	※24 ・30 ・	※ 12 ・	※ 高炉セメントB ・ 普通ポルトランドセメント ・ 低熱ポルトランドセメント
建築	鉄筋コンクリート	地上	・普通　コンクリート ・	・24 ・21 ・	・18 ・	・ 普通ポルトランドセメント ・ 高炉セメントB
		地下基礎、基礎梁	・普通　コンクリート ・	・24 ・21 ・	・15 ・	・ 普通ポルトランドセメント ・ 高炉セメントB
土木	無筋コンクリート		※普通　コンクリート ・	※18 ・	※ 12 ・	※ 高炉セメントB ・ 普通ポルトランドセメント ・
建築	無筋コンクリート		・普通　コンクリート ・	・18 ・	・15 ・	・ 普通ポルトランドセメント ・ 高炉セメントB ・
			・	・	・	

注1：無筋コンクリートには均しコンクリート、捨てコンクリートを含む。

1．4　砕石及び均しコンクリート、捨てコンクリート

砕石及び均しコンクリート、捨てコンクリートの厚さは1．4．1表による。

1．4．1表　砕石及び均しコンクリート、捨てコンクリートの仕様

部　位	種　別	厚さ　(mm)
土木工事	砂利または砕石	※ 200　・
	均しコンクリート	※ 100
建築工事	砂利または砕石	・ 60
	捨てコンクリート	・ 50

2　共通事項

2．1　記号及び符号

設計図中で使用する記号及び符号は、2．1．1表及び2．1．2表を標準とする。

2．1．1表　鉄筋の断面表示

区分＼径	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32
建　築	●	×	⌀	●	○	⊙	⊠	◎
土　木	● 又は建築による。							

2．1．2表　一般凡例

記号・符号	内　容	※印の説明及び注意事項
F※	フーチング断面種別	※　番号
※1C※2	柱断面種別	※1　階数 ※2　その階の番号
※1G※2	大梁断面種別	※1　階数，地中大梁はFとする ※2　その階の番号 X方向1，2，3- - - - Y方向A，B，C- - - -
CG※	片持大梁断面種別	※　番号、階別区分はしない
※1B※2	小梁断面種別	※1　地中小梁のみFとする。 ※2　階別区分はしない 地中小梁を除く
CB※	片持小梁断面種別	※　番号、階別区分はしない
※1W※2	壁配筋種別	※1　E：耐震壁，K：階段壁 D：土圧、水圧を受ける壁 階別区分はしない ※2　壁厚（cm）
※1S※2※3	床版配筋種別	※1　片持床版のみCとする ※2　床版厚（cm） ※3　配筋種別（英大文字） 階別区分はしない
※1K※2	階段の配筋種別	※1　A：片持床版形 B：二辺固定床版形 ※2　配筋種別（数字） 階別区分はしない
CB※	コンクリートブロック壁	※　壁厚（cm）
▨	打ち増し範囲	
▧	梁・床版の上がり下がり	一般には基準FLよりの＋、－に応じた凡例により表示
(※)	床用積載荷重	積載荷重の値　（kN/m²）
STP	あばら筋、スターラップ	梁、基礎梁、小梁
HOOP	帯筋、帯鉄筋、フープ	柱
S,HOOP	スパイラル筋、らせん筋	柱
幅止筋	幅止め筋	柱、梁、壁
組立筋	組立て筋	床版、底版

2．2　一般注意事項

（1）設計図は監督職員の承諾を得なければ変更してはならない。
変更の必要を生じた場合は、監督職員と協議すること。

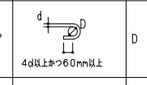
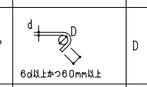
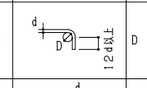
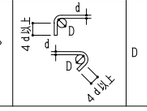
3　土木工事

3．1　鉄筋の曲げ加工

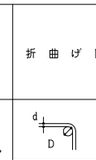
鉄筋の曲げ加工は、3．1．1表及び3．1．2表を標準とする。

（1）Dは、曲げ内法直径を示す。
（2）dは、鉄筋直径（呼び名）を示す。

3．1．1表　末端部

曲げ角度	折曲げ図		すべてのコンクリート SD345 D16以下	すべてのコンクリート SD345 D19～D32	使用箇所
180°		D	5d以上	5d以上	定着末端部
135°		D	5d以上	5d以上	スターラップ、帯鉄筋 フープ筋 等
90°		D	5d以上	5d以上	
135° 90°		D	5d以上	5d以上	90° 135° 幅止め筋

3．1．2表　中間部

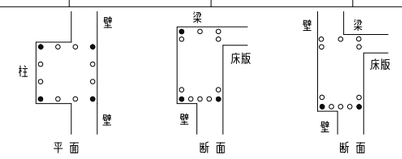
曲げ角度	折曲げ図		すべてのコンクリート SD345 D16以下	すべてのコンクリート SD345 D19～D32	使用箇所
90°以下		D	4d以上	4d以上	あばら筋、帯筋 スパイラル筋
		D	10d以上	10d以上	折曲げ鉄筋

3．2　異形鉄筋の末端部

異形鉄筋の末端部には、3．2．1表によりフックを設ける。

3．2．1表　フックを設ける位置

部　位		継手方式 重ね継手	継手方式 圧接継手	備　考
柱	四隅の主筋	1）最上階の柱頭 2）継手部	1）最上階の柱頭	3.2.1　図の●印 3.8.1　図参照
	上下階の柱断面が異なる場合	1）下階の柱主筋を引き通す事が出来ない柱頭部	1）下階の柱主筋を引き通す事が出来ない柱頭部	3.2.1　図の●印 3.8.2　図参照
	帯筋(HOOP)	1）末端部 2）継手部	1）末端部	3.9.1　図参照
梁	主筋	1）出隅及び下端筋の両端 （基礎梁は除く）	――――	3.2.1　図の●印
	あばら筋(STP)	1）末端部 2）継手部	1）末端部	3.12.1　図参照
杭基礎	独立フーチング基礎の底版筋	1）末端部 2）継手部	1）末端部	3.25.1　図参照
煙突の鉄筋		1）末端部 2）継手部	1）末端部	壁の一部となる場合を含む
幅止め筋				3.1.1　表参照

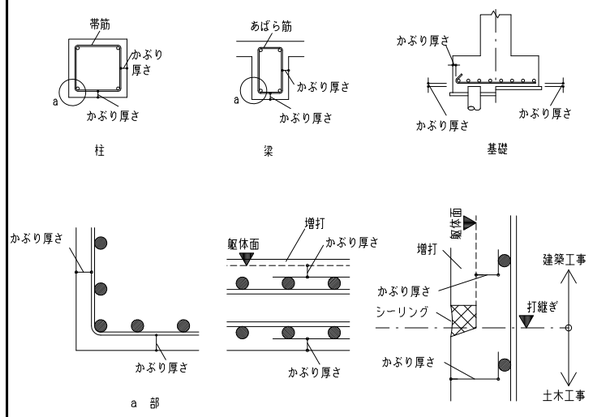


3．2．1図　異形鉄筋の末端部

3．3　鉄筋のかぶり及び間隔

3．3．1　かぶり厚さ

かぶり厚さとは、一番外側の鉄筋（幅止め筋を除く）の外面から躯体面までの距離（3．3．1図）をいう。
鉄筋組立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上を確保し、最小かぶり厚に許容施工誤差10mmを加えた厚さ以内に納めるものとする。



3．3．1図　鉄筋のかぶり厚さ

3．3．2　最小かぶり厚さ

最小かぶり厚さは、3．3．1表による。

（1）床版、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、均しコンクリートの厚さを含まない。
（2）柱及び梁の主筋にD29以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の1．5倍以上確保して最小かぶり厚さを定める。
（3）溶接金網にも適用する。

3．3．1表　鉄筋の最小かぶり厚さ(mm)

A　通常の施工の場合						
構造部分の種別		スラブ	底版・フーチング 杭基礎下端筋	底版・フーチング その他	梁	柱、壁
一　般		40	3.24 杭基礎の補強を参照	60	40	40
水中・土中等		50		60	50	60
B　塩害対策地域の施工の場合						
対策区分	構造部分の種別	スラブ	底版・フーチング 杭基礎下端筋	底版・フーチング その他	梁	柱、壁
S，I	一　般	70	3.24 杭基礎の補強を参照	70	70	70
	水中・土中等					
Ⅱ，Ⅲ	一　般	50		60	50	60
	水中・土中等					

1：部位により最小かぶり厚さの判断が困難な場合は、監督職員の指示を得る。
2：「その他」は底版・フーチングの上下面及び側面とする。
3：塩害対策地域区分は、土木工事特記仕様書による。

工事名	西泉調整池築造工事（3工区）		
図面名	構造細目共通図（複合構造物）（1）		
作成年月日			
縮尺		図面番号	27/32
工事箇所	行橋市西泉六丁目・七丁目		
行橋市環境水道部下水道課			

3　土木工事

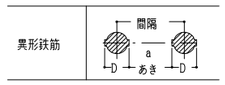
3．4　鉄筋相互のあき

3．4．1　梁・壁・床版

鉄筋相互のあきは、下記（1）、（2）、（3）の最大値以上とする。
（1）粗骨材の最大寸法の4／3倍
（2）最小のあき20mm
（3）異形鉄筋の直径（呼び名）以上

3．4．2　柱

鉄筋相互のあきは、下記（1）、（2）、（3）の最大値以上とする。
（1）粗骨材の最大寸法の4／3倍
（2）最小のあき40mm
（3）異形鉄筋の直径（呼び名）の1．5倍以上



（注）D：鉄筋の最外径　d：鉄筋直径（呼び名）

3．4．1図　鉄筋のあき

3．4．1表　鉄筋径と鉄筋間隔の関係一覧

鉄筋径（mm）		鉄筋相互のあき：a				最小鉄筋芯間隔	
鉄筋径 d	最外径 D	(1) 粗骨材径×4/3倍	(2) 最小あき	(3) 鉄筋径×1.0	(3) 鉄筋径×1.5	(梁) a＋D	(柱) a＋D
D13	14	33mm	梁：20mm 柱：40mm	13mm	20mm	47mm	54mm
D16	18			16mm	24mm	51mm	58mm
D19	21			19mm	29mm	54mm	61mm
D22	25	粗骨材最大径25mmの場合		22mm	33mm	58mm	65mm
D25	28			25mm	38mm	61mm	68mm
D29	33			29mm	44mm	66mm	77mm

3．5　鉄筋の継手及び定着

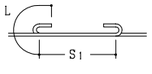
3．5．1　継手長及び定着長の基本

（1）鉄筋の継手及び定着の長さは、3．5．1表による。なお、定着長 S_2・S_3 は,3．1項による曲げ加工後の直線部分で確保する。
ただし,主鉄筋の中心間隔が100mm未満の場合は、別途継手及び定着の長さを算定し図面に示すものとする。

3．5．1表　鉄筋の重ね継手及び定着の長さ（主鉄筋中心間隔100mm以上）

鉄筋の種別	鉄筋径区分	設計基準強度 (N/mm²)	フックなし S_1：重ね継手長	フックなし S_2：定着長	フックなし S_3：定着長	フックあり S_1：重ね継手長	フックあり S_2：定着長	フックあり S_3：定着長
SD345	D16以下	24 以上 27 未満	50・d	45・d	40・d	40・d	35・d	30・d
	D19～D22		60・d	50・d	45・d	50・d	40・d	35・d
	D25以上		65・d	60・d	50・d	55・d	50・d	40・d

（2）径が異なる鉄筋の継手長さは、細い鉄筋の径による。
（3）継手は相互にずらすことを原則とする。
（4）フックのある場合の継手長及び定着長には、3．5．1図に示すようにフック部分Lを含まない。

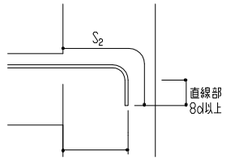


3．5．1図　フックのある場合の継手及び定着要領

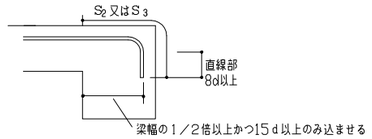
3．5．2　継手の特記事項

（1）継手は極力応力の小さい位置に設ける。
（2）異種径の鉄筋をガス圧接する場合は、鉄筋径の直近の範囲内とする。

3．5．3　梁主筋の柱内定着



3．5．2図　梁主筋の柱内定着要領

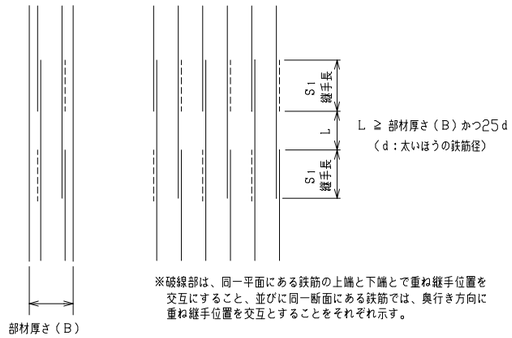


3．5．3図　小梁及びスラブ上端筋の梁内折曲げ定着要領

3．6　隣り合う継手の位置

3．6．1　主鉄筋の重ね継手

（1）同一断面での継手の割合（集中度）は1／2以下（相互にずらす）とする。
（2）継手長さは、軸方向に相互にずらして設ける。
（3）ずらす距離（L）は、部材厚（B）、かつ、太いほうの鉄筋径の25倍以上とする
（4）前記（1）を確保できない場合は、基本定着長の1．7倍の継手長さとし、横方向の鉄筋で補強する。
（5）前記（1）を確保できない場合等は、監督職員の承諾を得て、ガス圧接継手又は機械式継手工法を採用することができる。
（6）継手部の鉄筋のあきは、粗骨材の最大寸法以上とする。



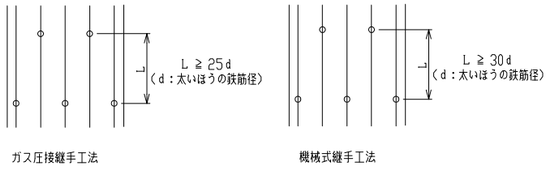
※破線部は、同一平面にある鉄筋の上端と下端とで重ね継手位置を交互にすること、並びに同一断面にある鉄筋では、奥行き方向に重ね継手位置を交互とすることをそれぞれ示す。

3．6．1図　重ね継手工法

3．6．2　主鉄筋のガス圧接および機械式継手

主鉄筋、配力鉄筋のガス圧接継手及び機械式継手は以下のとおりとする。機械式継手は、ねじ節継手工法とし、土木学会「鉄筋継手指針（1982）」による。また、ねじ節継手工法以外の機械式継手を採用する場合は、監督職員の承諾を得ること。

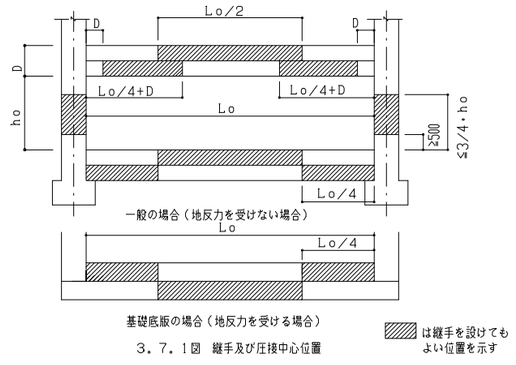
（1）同一断面での継手の割合（集中度）は1／2以下とする。
（2）継手は軸方向に相互にずらして設ける。
（3）ガス圧接の場合のずらす距離（L）は、太いほうの鉄筋径の25倍以上とする。
（4）機械式継手の場合のずらす距離（L）は、太いほうの鉄筋径の30倍以上とする。



3．6．2図　各種継手工法

3．7　継手及び圧接中心位置（柱、大梁）

継手及び圧接中心位置は図面にない場合は、3．7．1図による。
（1）柱の継手及び圧接中心位置は、梁上端から50cm以上、150cm以下かつ3／4ho（hoは柱の内法高さ）以下とする。
（2）梁の継手及び圧接中心位置は下記による。
上端筋　中央：Lo／2以内
下端筋　両端：柱面より梁せい（D）以上離し、Lo／4を加えた範囲以内
（3）通常の応力と異なる場合の継手位置は、3．7．1図によらず図面による。

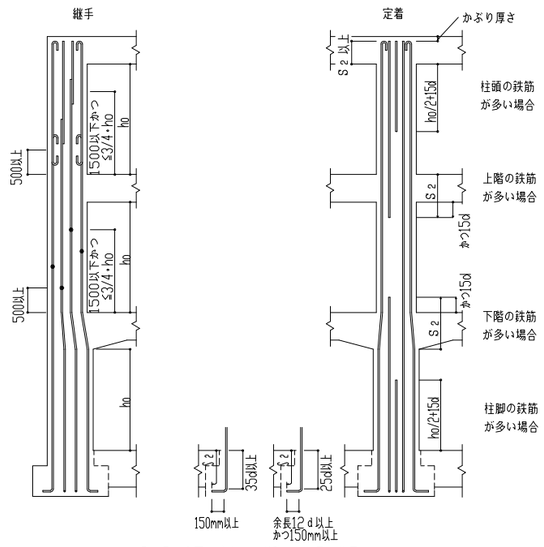


3．7．1図　継手及び圧接中心位置

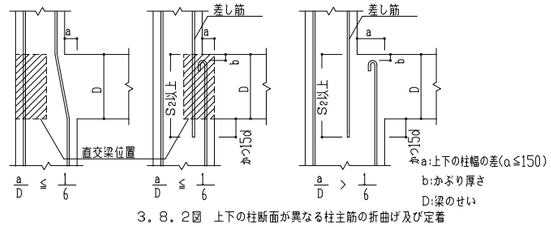
3．8　柱筋の継手及び定着

3．8．1　一般事項

（1）継手長さはS_1とし、定着及び余長は、3．8．1図による。
（2）柱頭定着長さS_2が確保出来ない場合は、図面による。
（3）上下の柱断面が異なる場合の柱主筋の折曲げ及び定着は、3．8．2図による。
（4）柱脚定着長さ25d（余長12d以上）または35dが確保出来ない場合は、図面による。



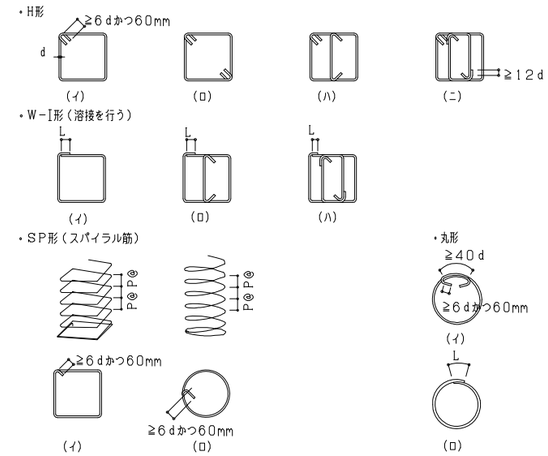
3．8．1図　柱主筋の継手、定着及び余長



3．8．2図　上下の柱断面が異なる柱主筋の折曲げ及び定着

3．9　帯筋の形状

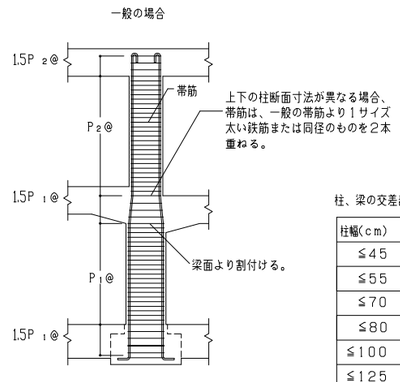
（1）帯筋の形状は、3．9．1図とし、種別は図面による。図面になければ下記による。
（a）H形とする。
（b）H形の135°曲げのフックが困難な場合は、W－I形とする。
（c）溶接する場合の溶接長さLは、両面フレア溶接の場合は5d以上、片面フレア溶接の場合は10d以上とし、組立前に行う。
（d）SP形において、柱頭及び柱脚の端部は、1.5巻以上の添巻きを行う。



3．9．1図　帯筋組立の形

3．10　帯筋の割付け

（1）フック及び継手の位置は交互とし、位置を変える。
（2）帯筋の割付けは、3．10．1図による。ただし、図面にある場合は図面による。
（3）柱、梁の交差部（パネルゾーン）の帯筋のせん断補強比は、0.2％以上を確保し、ピッチは1.5倍とする。



3．10．1図　帯筋の割付け

柱、梁の交差部の配筋例（0.2％確保）

柱幅(cm)	パネルゾーン
≦45	D13 @150
≦55	D13 @150
≦70	D13 @150
≦80	D13 @150
≦100	D13 @125
≦125	D13 @100
≦130	D16 @150
≦155	D16 @125

※P1、P2のピッチは100以下とする。

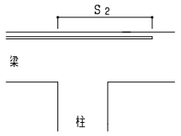
工事名	西泉調整池築造工事（3工区）		
図面名	構造細目共通図（複合構造物）（2）		
作成年月日			
縮尺		図面番号	28/32
工事箇所	行橋市西泉六丁目・七丁目		
行橋市環境水道部下水道課			

3　土木工事

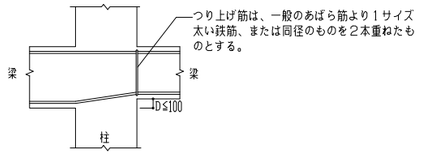
3．11　大梁筋の継手及び定着

3．11．1　一般事項

（1）継ぎ手長さ、定着長さ及び余長は、3．11．1図から3．11．10図による。
（2）梁主筋は、連続端で柱に接する梁の主筋が同数のときは柱をまたいで引き通すものとし、鉄筋の本数が異なる場合には、3．5．2図のように柱内に定着する。ただし、やむを得ず梁内に定着する場合は、3．11．1図による。
（3）梁主筋を柱内に折り曲げて定着する場合は次による。
　上端筋：曲げ下ろす
　下端筋：原則として曲げ上げる。
　梁主筋ののみ込み長さは、柱せいの3／4倍以上かつ20ｄ以上を確保する。（※1）
（4）梁にハンチをつける場合、その傾斜は図面による。図面になければ1：4とする。
（5）═══ 印は、継ぎ手及び余長を示す。
（6）破線は柱内定着の場合を示す。
（7）3．2異形鉄筋の末端部で定めた鉄筋にはフックをつける。
（8）段違い梁は3．11．2図による。



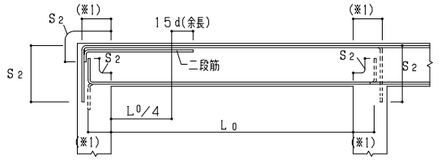
3．11．1図　梁主筋を梁内定着



3．11．2図　段違い梁

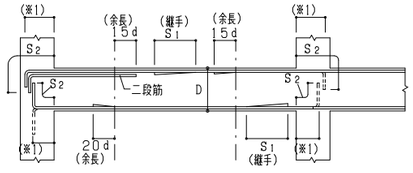
3．11．2　ハンチのない場合

（1）最上階の場合

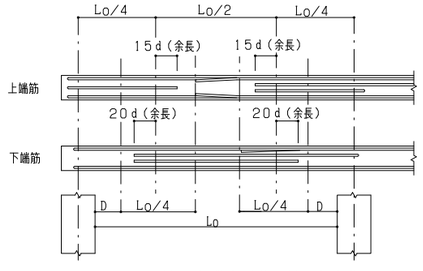


3．11．3図　大梁の重ね継手、定着及び余長（最上階）

（2）一般階の場合



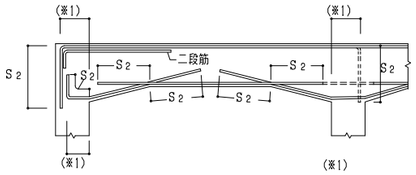
3．11．4図　大梁の重ね継手、定着及び余長（一般階その1）



3．11．5図　大梁の重ね継手、定着及び余長（一般階その2）

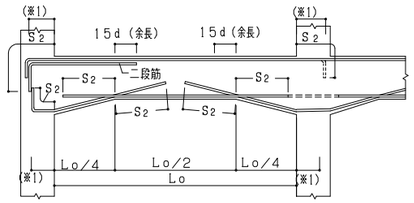
3．11．3　ハンチのある場合

（1）最上階の場合



3．11．6図　ハンチのある大梁の定着及び余長（最上階）

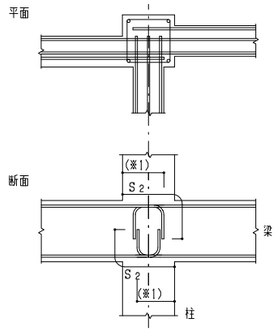
（2）一般階の場合



3．11．7図　ハンチのある大梁の定着及び余長（一般階）

3．11．4　水平段差のある場合

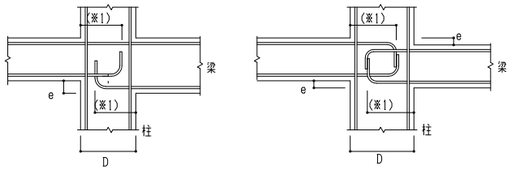
（1）水平段差のある場合



3．11．6図　大梁の定着及び余長（水平段差のある場合）

3．11．5　鉛直段差（e）のある場合

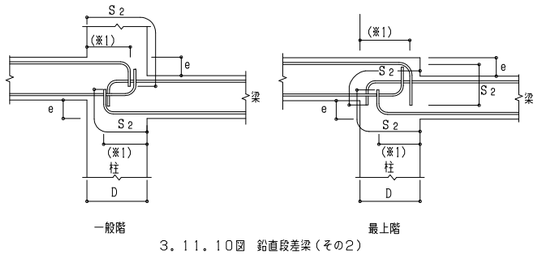
（1）e／D≦1／6の場合



定着の長さは、3．11．2図に準ずる

3．11．9図　鉛直段差梁（その1）

（2）e／D＞1／6の場合



3．11．10図　鉛直段差梁（その2）

3．12　梁のあばら筋、腹筋及び幅止め筋

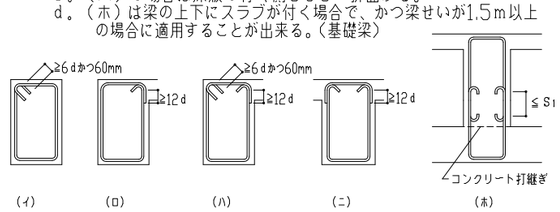
3．12．1　一般事項

（1）腹筋に継手を設ける場合の継手長さは、150mm程度とする。
（2）壁梁の場合、腹筋の継手長さはS_1、定着長さをS_2とする。
（3）土圧、水圧を受ける梁は、図面による。
（4）幅止め筋及び受け用幅止め筋は、D13－1000mmピッチ程度とする。
（5）破線は柱内定着の場合を示す。

3．12．2　あばら筋組立の形及びフックの位置

（1）形は、3．12．1図（イ）を標準とする。
　ただし、（イ）によることが出来ない場合は、下記の方法によることが出来る。
　a．床版が片側に付く場合は、（ロ）又は（ハ）
　b．床版が両側に付く場合は、（ロ）～（ニ）

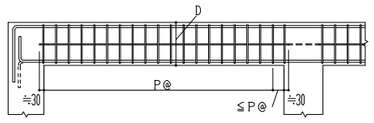
（2）フックの位置
　a．（イ）の場合は交互とする。
　b．（ロ）の場合　床版が片側に付く場合は床版の付く側
　　床版が両側に付く場合は交互
　c．（ハ）の場合は床版の付く側を90°折曲げる。
　d．（ホ）は梁の上下にスラブが付く場合で、かつ梁せいが1.5m以上の場合に適用することが出来る。（基礎梁）



3．12．1図　あばら筋組立の形及びフックの位置

3．12．3　あばら筋の割付け

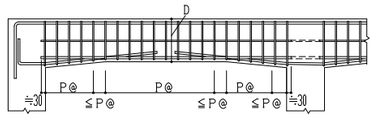
（1）間隔が一様でハンチのない場合



※あばら筋は、柱面の位置から割付ける。

3．12．2図　あばら筋の割付け（その1）

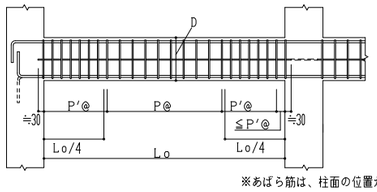
（2）間隔が一様でハンチのある場合



※あばら筋は、柱面の位置から割付ける。

3．12．3図　あばら筋の割付け（その2）

（3）梁の端部で間隔の異なる場合



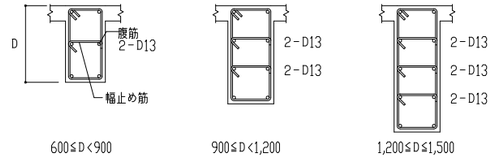
※あばら筋は、柱面の位置から割付ける。

3．12．4図　あばら筋の割付け（その3）

3．12．4　腹筋及び幅止め筋

（1）一般の梁

a）腹筋及び幅止め筋



3．12．5図　腹筋及び幅止め筋

（2）特殊な梁
　腹筋及び幅止め筋は、図面による。

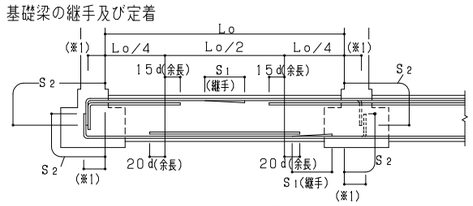
3．13　基礎梁及び底版の継手及び定着

3．13．1　一般事項

（1）梁筋は、連続端で柱に接する梁筋が同数の時は柱をまたいで引き通すものとし、鉄筋の本数が異なる場合は柱内に定着する。やむを得ず梁内に定着する場合は、3．11．1図に準ずる。
（2）梁筋を柱内に定着する場合は、3．11．1（3）による。
（3）柱幅く梁幅の場合の定着は、3．13．3図による。
（4）═══ 印は、継ぎ手及び余長を示す。
（5）破線は柱内定着の場合を示す。

3．13．2　基礎梁の場合

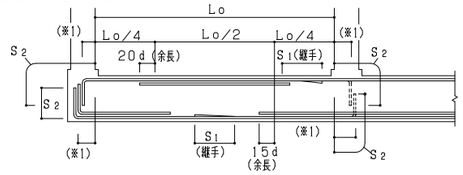
（1）基礎梁の継手及び定着



3．13．1図　主筋の継手、定着及び余長（その1）

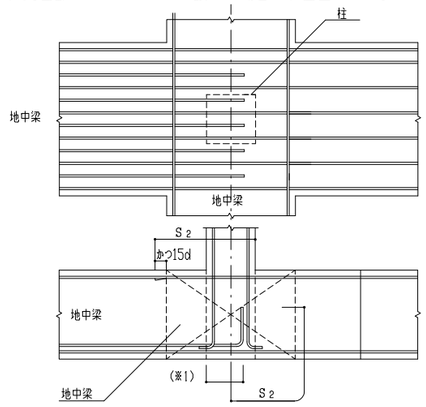
3．13．3　連続基礎及びべた基礎の場合

（1）柱幅≧梁幅の場合



3．13．2図　主筋の継手、定着及び余長（その2）

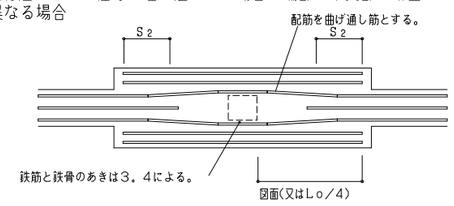
（2）柱幅く梁幅の場合
　（a）交差部のスターラップを設ける場合は、図面による。



3．13．3図　主筋の継手、定着及び余長（その3）

3．13．4　梁形を設けない場合の基礎底版

（1）鉄骨造のBOX柱等が埋め込まれる場合の端部と中央部の断面の異なる場合



3．13．4図　主筋の継手、定着及び余長（その4）

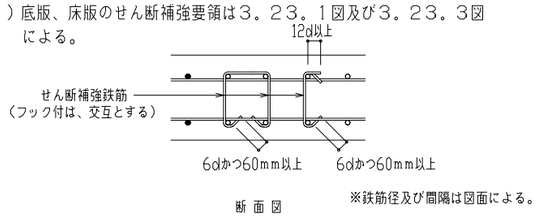
工事名	西泉調整池築造工事（3工区）		
図面名	構造細目共通図（複合構造物）（3）		
作成年月日			
縮尺		図面番号	29/32
工事箇所	行橋市西泉六丁目・七丁目		
行橋市環境水道部下水道課			

3　土木工事

3．23　せん断補強鉄筋

3．23．1　底版、床版

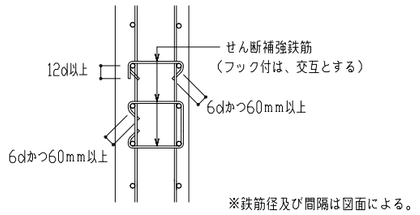
（1）底版、床版のせん断補強要領は3．23．1図及び3．23．3図による。



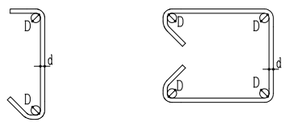
3．23．1図　底版、床版のせん断補強要領図

3．23．2　壁

（1）壁のせん断補強要領は3．23．2図及び3．23．3図による。



3．23．2図　壁のせん断補強要領図

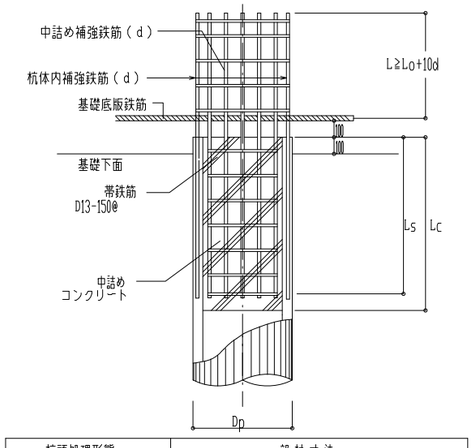


3．23．3図　せん断補強筋加工要領図

3．24　杭基礎の補強

3．24．1　一般事項

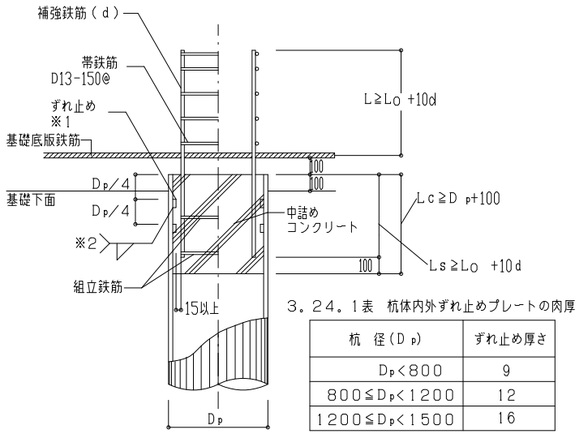
（1）補強鉄筋にSD390またはSD490を用いる場合、中詰めコンクリート及び補強鉄筋が定着する基礎底版コンクリートの設計基準強度を30N/mm² 以上とする。
（2）鉄筋種別、径・本数は、図面による。
（3）杭基礎の補強鉄筋の定着長Ldは、35d以上とする。
（4）杭頭補強鉄筋が底版厚より長くなる場合は、3,24,6図による。
（5）杭体内補強鉄筋は必要に応じ配置する。



杭頭処理形態	部材寸法	
カットオフする場合	鉄筋	Ls≧50φ+Lo+10d
	コンクリート	Lc≧2.5Dp+100、かつ50φ+Lo+(被り100)
カットオフしない場合	鉄筋	Ls≧Lo+10d
	コンクリート	Lc≧2.5Dp+100、かつLo+(被り100)

注1．φは、PC鋼棒径とする。

3．24．1図　PHC杭の杭頭補強



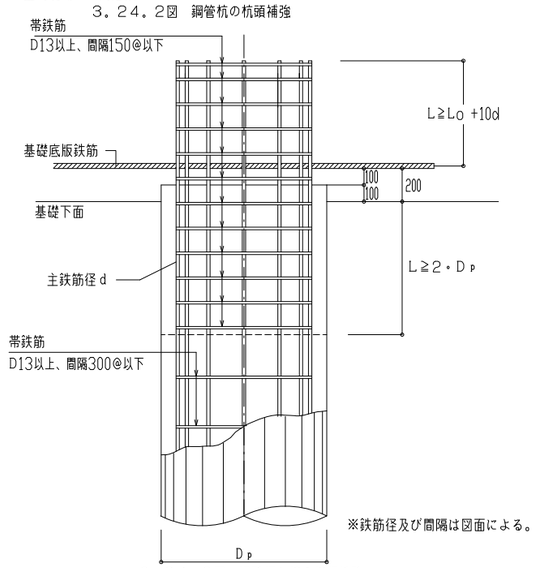
3．24．1表　杭体内外ずれ止めプレートの肉厚

杭　径（Dp）	ずれ止め厚さ
Dp＜800	9
800≦Dp＜1200	12
1200≦Dp＜1500	16

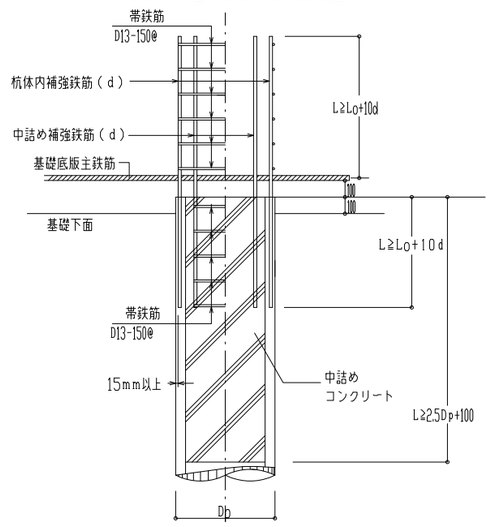
※材質はSS400

※1：ずれ止めの大きさは、3．24．1表による。
※2：全周現場すみ肉溶接

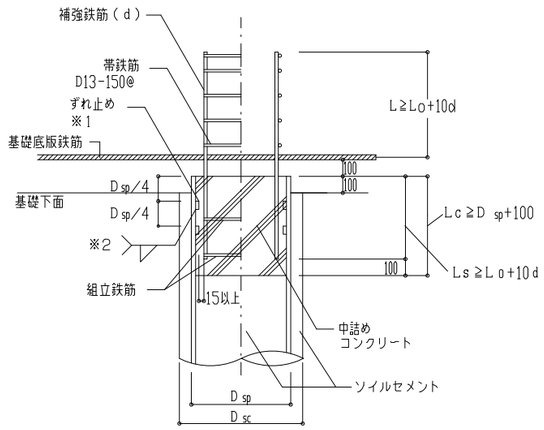
3．24．2図　鋼管杭の杭頭補強



3．24．3図　場所打ち杭の杭頭補強

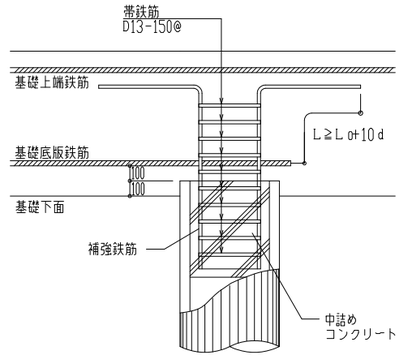


3．24．4図　SC杭の杭頭補強



※1：ずれ止めの大きさは、3．24．1表による。
※2：全周現場すみ肉溶接

3．24．5図　鋼管ソイルセメント杭の杭頭補強

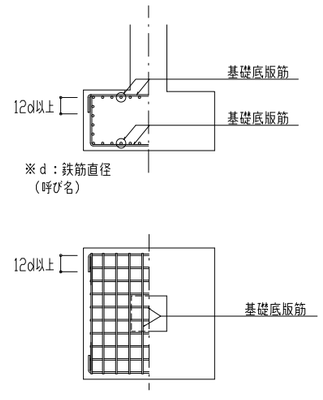


3．24．6図　杭頭補強筋が底版厚より長くなる場合の杭頭補強

3．25　独立基礎の補強

3．25．1　フーチングの補強

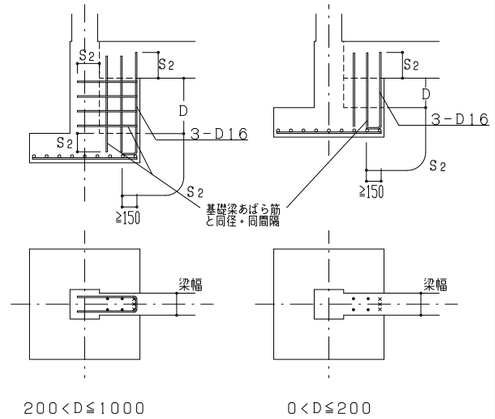
（1）補強方法は図面による。



3．25．1図　独立基礎の補強配筋

（2）基礎底版筋の配筋は、図面による。

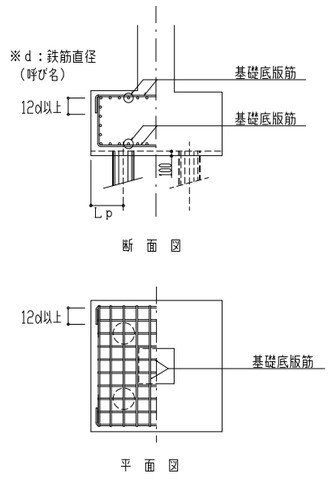
3．25．2　基礎接合部の補強



3．25．2図　基礎接合部の補強配筋

3．25．3　杭基礎の場合のフーチング配筋方法

（1）杭基礎の場合のフーチング配筋方法は、3．25．3図とする。
（2）杭頭処理の方法は、3．24項に基づくものとする。
（3）杭芯とフーチング外端面との距離（Lp）は、場所打杭、打ち込み杭、埋め込み杭は1．0D（Dは杭径）以上とする。

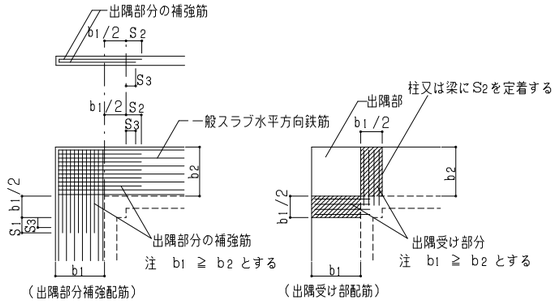


3．25．3図　杭基礎の場合のフーチング配筋方法

工事名	西泉調整池築造工事（3工区）		
図面名	構造細目共通図（複合構造物）（6）		
作成年月日			
縮尺		図面番号	30/32
工事箇所	行橋市西泉六丁目・七丁目		
行橋市環境水道部下水道課			

3．18．3　出隅部の配筋方法

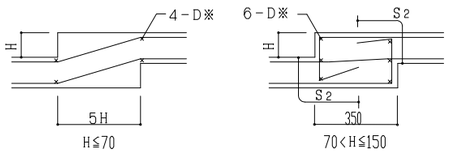
（1）補強の配筋は図面による。配筋方法は、3,18,6図による。特記にない場合は、D13@100ダブル程度とする。
（2）出隅受け部分(図のハッチ部分)の配筋は、図面(幅は b1/2とする)による。



3．18．6図　片持スラブ出隅部の補強配筋

3．18．4　段差床版の補強

（1）同一床版に段差がある場合、3．18．7図の補強を行う。ただし、H＞150の場合は、小梁を設ける事を原則とする。

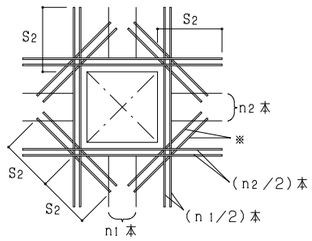


D※：鉄筋径は、図面による。

3．18．7図　段差のある床版の補強配筋

3．18．5　床版開口部の補強

（1）開口の最大径≦700の場合は、開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、隅角部には、斜め方向に主筋径以上の鉄筋2本を上下筋の内側に配筋する。（3．18．8図）
開口の最大径＞700の場合は図面による。



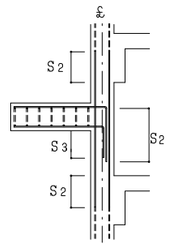
※鉄筋径及び本数は、図面による

3．18．8図　床版開口部の補強配筋

（2）開口寸法が配筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋出来る場合は、補強筋を省略することができる。

3．19　階段の配筋要領

（1）壁配筋は、図面による。
（2）階段主筋は、壁の中心線を越えてから縦に曲げ降ろす。

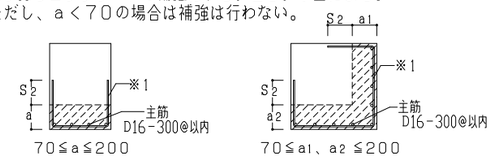


3．19．1図　片持スラブ形階段配筋の定着

3．20　柱及び梁の増し打ち要領

3．20．1　柱

（1）増し打ちコンクリートの補強は、3．20．1図による。
ただし、a＜70の場合は補強は行わない。



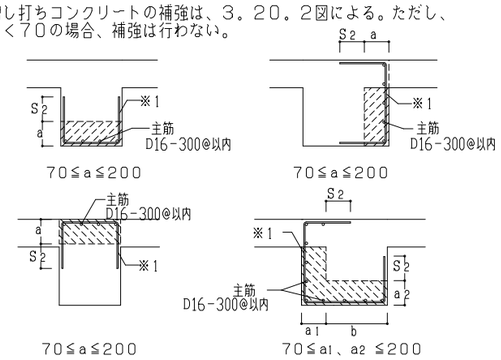
※1．帯筋と同径・同ピッチとする。

3．20．1図　柱の増し打ち補強配筋

（2）増し打ち部分での鉄筋は、定着長さとして認めない。ただし、躯体と一体打ちの場合を除く。
（3）増し打ち部分の帯筋の定着長さは、S2以上とする。
（4）増し打ち部分主筋の定着，重ね長さは、柱の主筋による。

3．20．2　梁

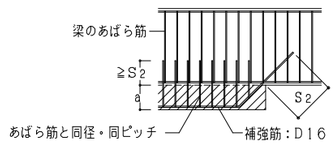
（1）増し打ちコンクリートの補強は、3．20．2図による。ただし、a＜70の場合、補強は行わない。



※1．あばら筋と同径・同ピッチとする。

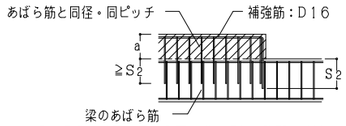
3．20．2図　梁の増し打ち補強配筋

（2）増し打ち部分での鉄筋は、定着長さとして認めない。ただし、躯体と一体打ちの場合を除く。
（3）増し打ち部分のあばら筋の定着長さは、S2以上とする。
（4）増し打ち部分の主筋の定着、重ね長さは、梁の主筋による。
（5）梁の上下の増し打ちが途中で終わる場合。



3．20．3図　梁の上下の増し打ち配筋補強（途中で終わる場合）

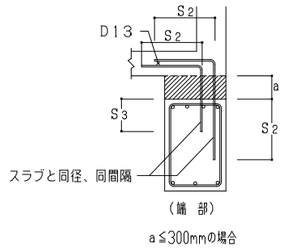
（6）梁の側面の増し打ちが途中で終わる場合。



3．20．4図　梁の側面の増し打ち補強配筋（途中で終わる場合）

3．20．3　土間スラブの打継ぎ補強

（1）基礎梁とスラブを一体打ちとしないで、打ち継ぎを設ける場合。

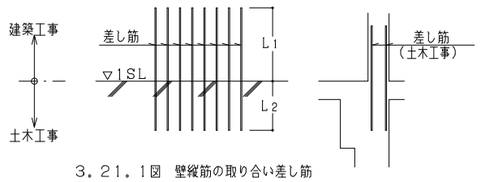


3．20．5図　土間スラブの打継ぎ補強配筋（ダブル）

3．21　土木部分と建築部分の取り合い

3．21．1　壁縦筋の取り合い

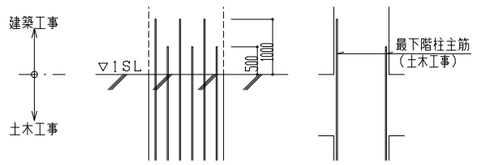
（1）差し筋の仕様は建築工事仕様とする。（径は図面による）
（2）L1及びL2は4．5．1表による。



3．21．1図　壁縦筋の取り合い差し筋

3．21．2　柱主筋の取り合い

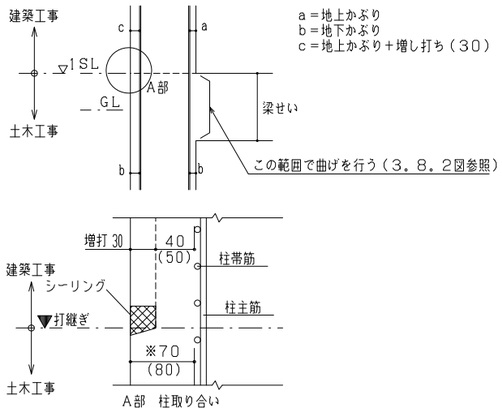
（1）最上部の柱主筋は、1階建築部分の柱断面に応じ、3．21．2図の圧接位置まで延ばすこと。



3．21．2図　柱主筋の取り合い差し筋

3．21．3　柱主筋かぶり厚の取り合い

（1）土木工事の外壁に面する柱主筋のかぶりは、3．3．1表によらず、3．21．3図による。



※　かぶり厚さ70（80）mmは、柱部材の外壁に面する部分のみに適用する。
（　）内は、塩害対策地域に適用する。

3．21．3図　柱主筋かぶり厚の取り合い

工事名	西泉調整池築造工事（3工区）		
図面名	構造細目共通図（複合構造物）（5）		
作成年月日			
縮尺		図面番号	31/32
工事箇所	行橋市西泉六丁目・七丁目		
行橋市環境水道部下水道課			

3　土木工事

3．14　小梁及び片持梁の配筋要領

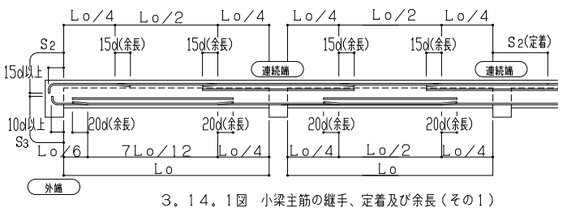
3．14．1　一般事項

（1）図面にない事項は大梁、梁のあばら筋、及び基礎梁の項に準ずる。
（2）═══ 印は、余長位置を示す。

3．14．2　小　梁

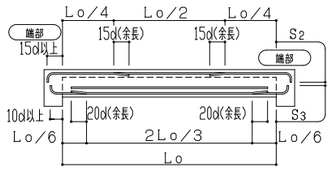
梁内の定着筋において梁せいが小さく垂直で余長が取れない場合、斜めにしてもよい。

（1）連続小梁の場合



3．14．1図　小梁主筋の継手、定着及び余長（その1）

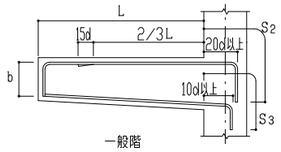
（2）単独小梁の場合



3．14．2図　小梁主筋の継手、定着及び余長（その2）

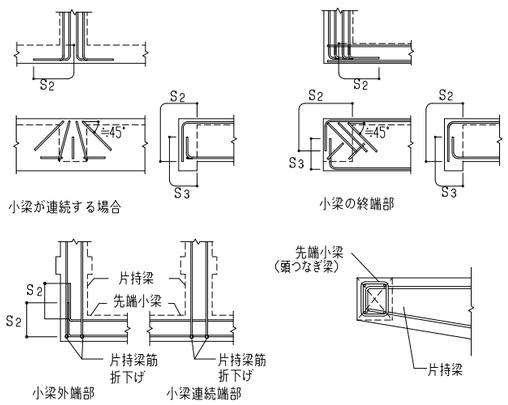
3．14．3　片持梁筋の定着

（1）先端に小梁のない場合
　a．先端の折曲げの長さbは、梁せいよりかぶり厚さを除いた長さとする。
　b．梁筋を引き通さない場合は、取り合い部材に定着する。ただし、柱に取り合う場合は、全数を引き通すことができる場合でも、上端筋は、2本以上を柱に定着する。



3．14．3図　片持梁主筋の定着及び余長（先端に小梁がない場合）

（2）先端に小梁がある場合
　a．上端筋は、先端小梁内に斜めに定着する。
　b．先端小梁終端部の主筋は、片持梁内に水平定着する。
　c．先端小梁の連続端は、片持梁の先端を貫通する通し筋としてよい。

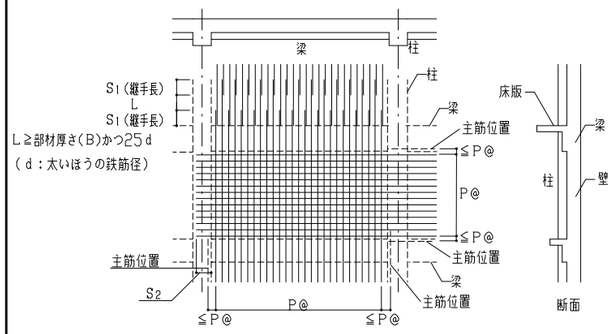


3．14．4図　片持梁主筋の定着

3．15　壁の配筋要領

3．15．1　一般事項

（1）壁配筋の継手長さをS1、定着の長さは、S2とする。
（2）土圧及び水圧などを受ける壁及び耐震壁として、図面に示されたものは、継手長さをS1、定着長さをS2とする。
（3）幅止め筋は、縦、横ともD13−@1000mmを標準とする。
（4）一般部壁筋は、3．15．1図によることとし、隣接する壁の鉄筋と重ね継手を設ける場合は、3．6項に従うものとする。



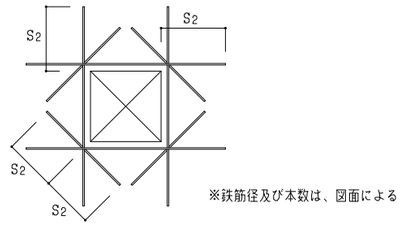
3．15．1図　壁の配筋

3．15．2　耐震壁の開口

（1）耐震壁等の開口は、図面以外は設けてはならない。
（2）やむを得ず開口をあける場合は、構造上安全であることを構造計算によって確認すること。

3．15．3　壁開口部の補強

（1）壁開口部の補強は、図面による。補強筋の長さ及び位置は、3．15．2図を標準とする。

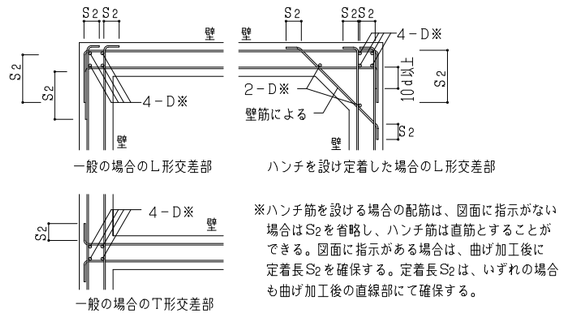


3．15．2図　壁開口部の補強要領

（2）開口寸法が配筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋出来る場合は、補強筋を省略することができる。

3．15．4　壁の交差部及び端部

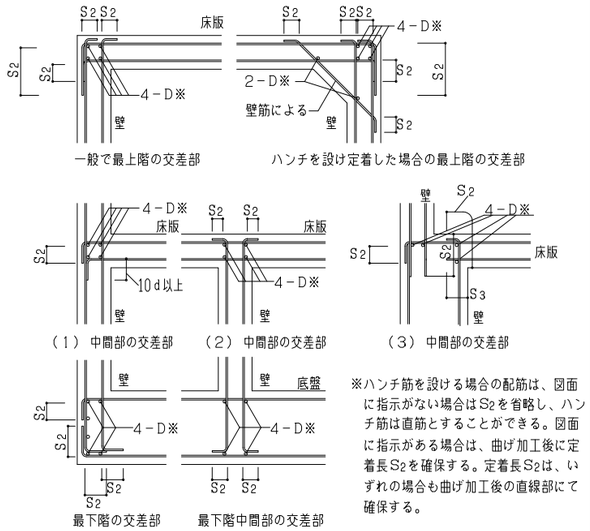
（1）壁と壁の交差部は3．15．3図による。
　a．交差部補強筋径D※はD16以上、かつ壁配力筋と同径とする。



※ハンチ筋を設ける場合の配筋は、図面に指示がない場合はS2を省略し、ハンチ筋は直筋とすることができる。図面に指示がある場合は、曲げ加工後に定着長S2を確保する。定着長S2は、いずれの場合も曲げ加工後の直線部にて確保する。

3．15．3図　壁と壁の交差部及び端部の配筋

（2）壁と床版の交差部は3．15．4図による。
　a．交差部補強筋径D※はD16以上、かつ壁配力筋と同径とする。

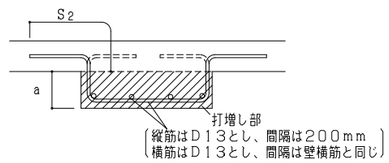


※ハンチ筋を設ける場合の配筋は、図面に指示がない場合はS2を省略し、ハンチ筋は直筋とすることができる。図面に指示がある場合は、曲げ加工後に定着長S2を確保する。定着長S2は、いずれの場合も曲げ加工後の直線部にて確保する。

3．15．4図　壁と床の交差部及び端部の配筋

3．17　壁の打増し要領

（1）コンセントボックス等を壁に埋め込む場合の補強は、特記によるほか、配管等での壁の打増し補強筋は、3．17．1図による。
打増し厚さのaが50mm以上、200mm以下に適用する。
200mmを超える場合は、特記による。

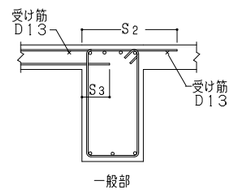


3．17．1図　壁の打増し補強配筋

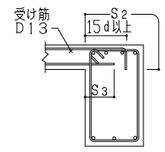
3．18　床の配筋要領

3．18．1　一般事項

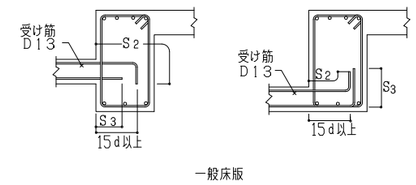
（1）鉄筋の継手長さは、S1とする。
（2）定着長さ及び受け筋は、3．18．1図による。ただし、引き通すことができない場合は、3．18．2図、3．18．3図により梁内に定着する。
（3）基礎梁と床版を一体打ちとしないで、打ち継ぎを設ける場合の補強は図面による。図面になければ3．20．5図による。



3．18．1図　スラブ筋の定着長さ及び受け筋（その1）



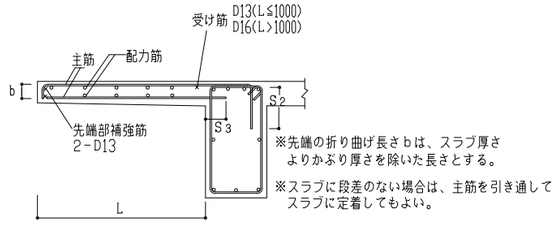
3．18．2図　スラブ筋の定着長さ及び受け筋（その2）



3．18．3図　スラブ筋の定着長さ及び受け筋（その3）

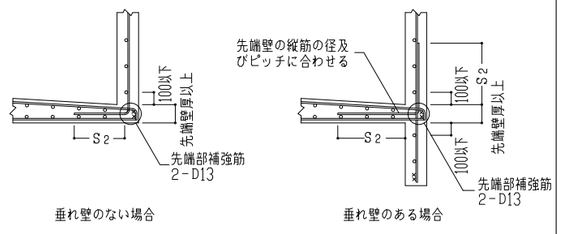
3．18．2　片持スラブ

（1）片持スラブの配筋



3．18．4図　片持スラブの配筋

（2）先端に小梁がなく壁が取り付く場合



3．18．5図　先端に壁が付く場合の配筋

工事名	西泉調整池築造工事（3工区）		
図面名	構造細目共通図（複合構造物）（4）		
作成年月日			
縮尺		図面番号	32/32
工事箇所	行橋市西泉六丁目・七丁目		
行橋市環境水道部下水道課			